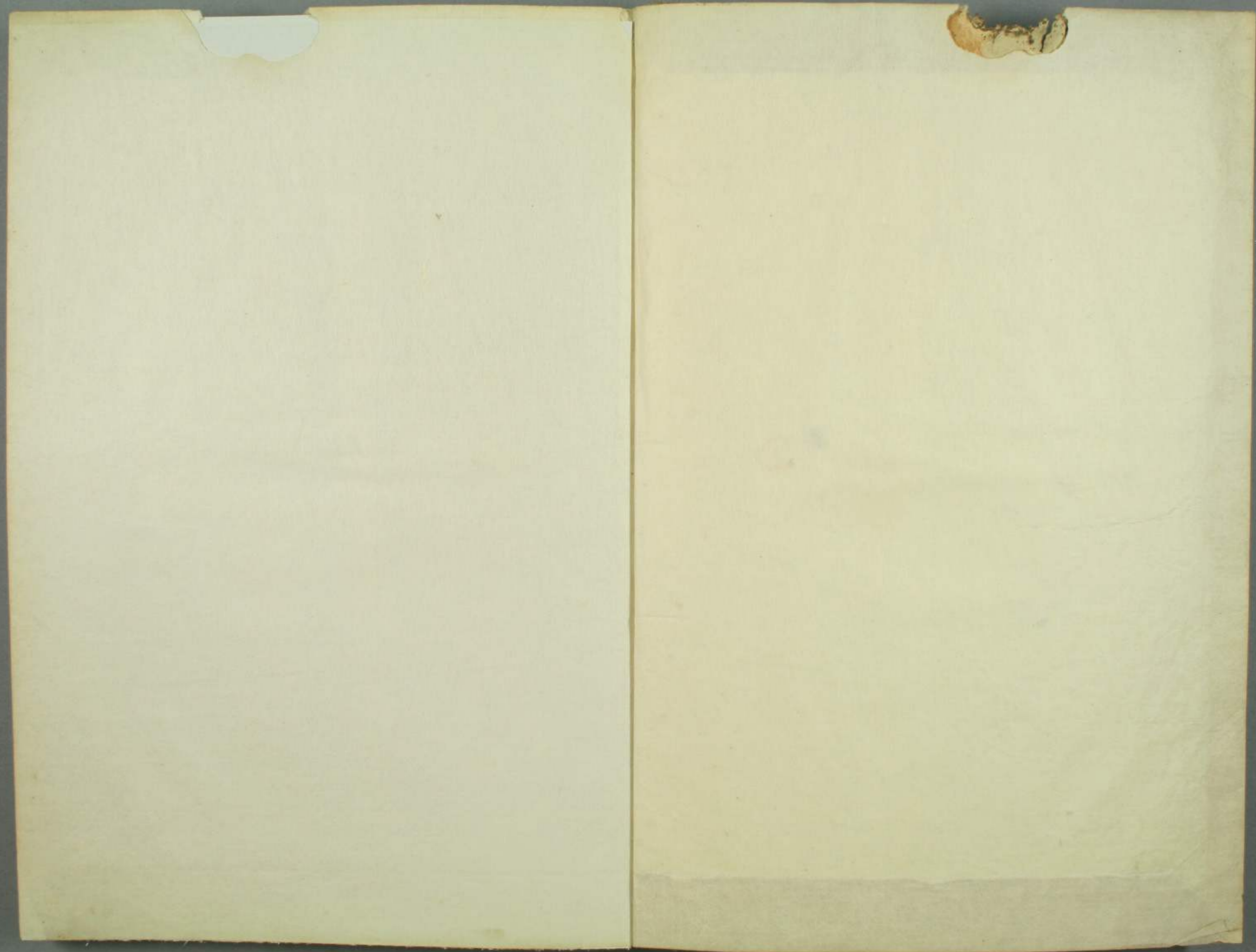


特 別  
36  
9289  
2









集古会大會 (元禄時代大御所)

同氣相成に言真ナル共同好む友人村田辰久加藤本所

宮島萬場より諸氏連月會を而して好古談

方今吾邦、如古家なきに歐米諸國博あり議事者ハ

皆上古の器物ヲ尚ヒ考古學ヲ精ニ勉ムルモノ多クハ

最モ是れ又高尚必ギテ余輩一門ニ在リテハ

明治維新前迄三百年の間ニ在ル古器中ニテ當時ノ

人情風俗考へば考へば多ク是レノ古器ヲ蒐集シテ

紹介セバ又益スル所アリト信ズ幸ヒテ我當リ集古會

會ニテ隔月外神田仲所青柳亭樓上會アリ

加入テ計ニ遠ク古石器時代ヲ追ヒ明治前迄

古物一覽眼多ク見スル亦ナリ本會ニ該擧テ文法

事會員諸氏内該擧テ陳列シテ

其九月何日本會大會ヲ開ク日元録古物

録月會序とテ陳列スル物多ク是レノ古器ヲ

先々會員慶長年ノ以迄古物多ク是レノ古器ヲ

列シ會員會同ハ同好諸君從覽ニ供セシム

願ハ諸君該會中本題ニ關スル古物ヲ陳アリテ

有益計ニシテ望ム

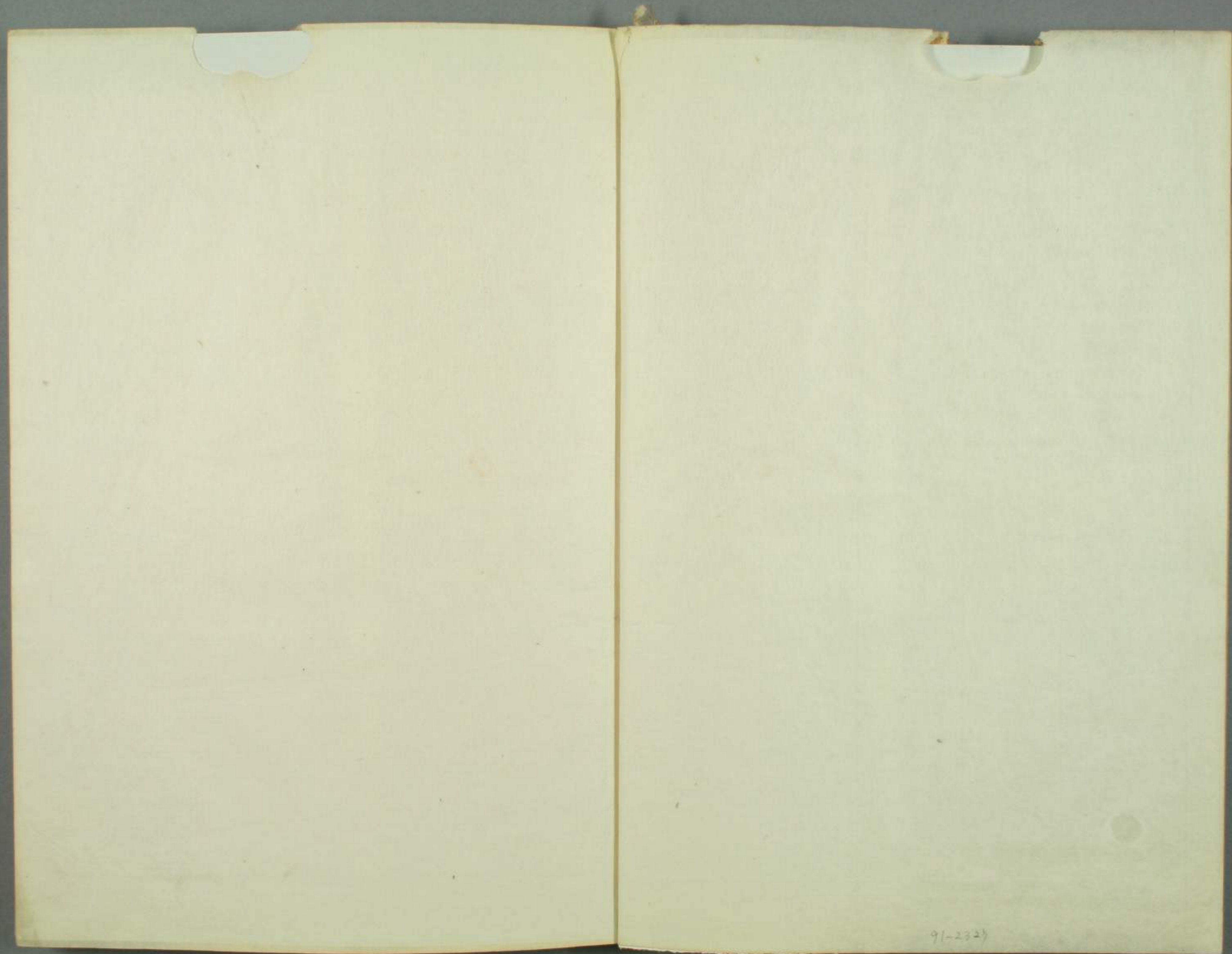
清水時任

# 大野雲外稿

法之可存也

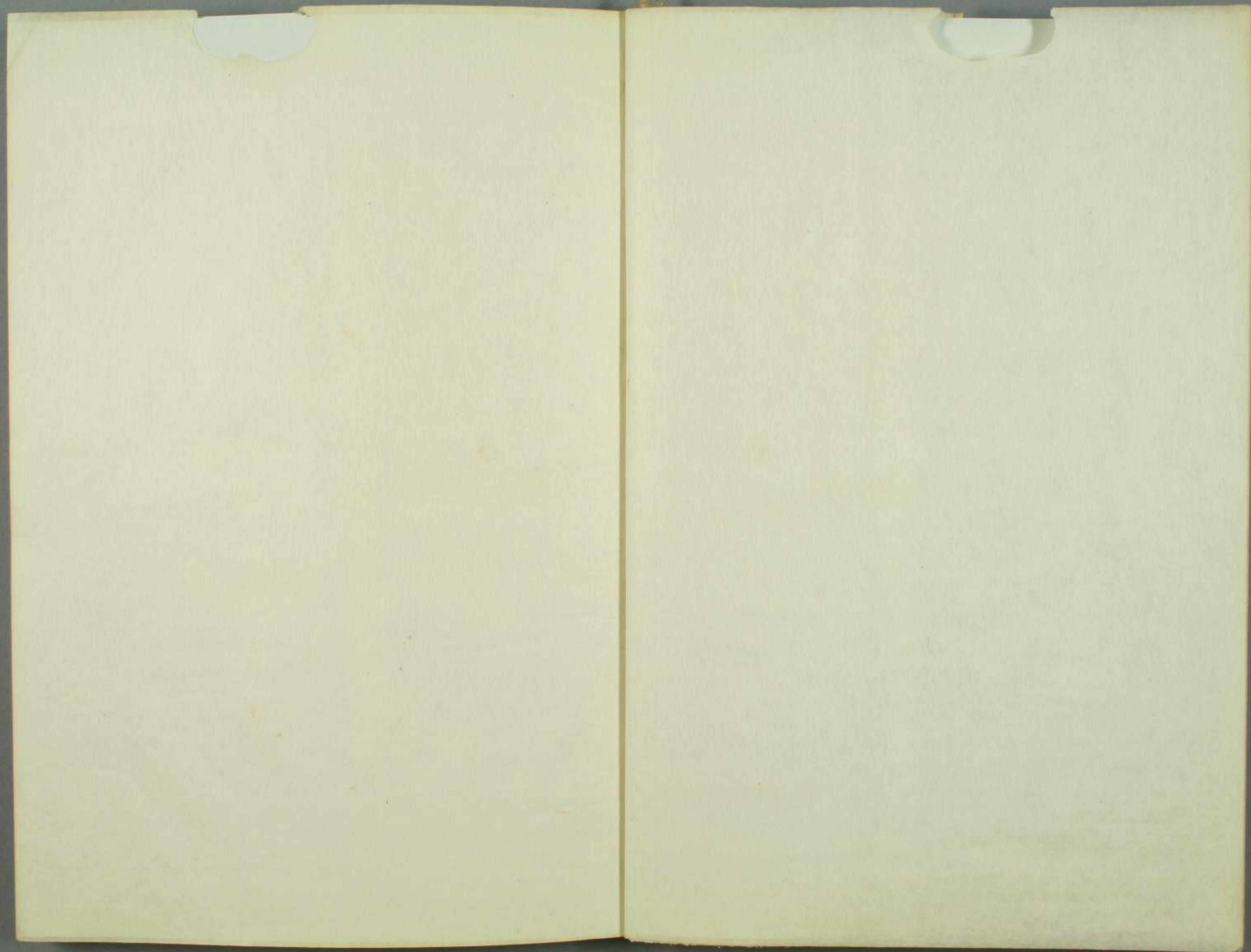
るより少余は長年古物を嗜む者九月開會の旨を告ぐてもいふ  
久章不完全に巨款を投じて古物を蒐集せしむるは九月  
彼岸の最後は世帯用之他を以て蒐集せしむるは九月十日より又  
柜ノ下月未だ開會の旨を告ぐてもいふは九月十日より又





91-2323







三

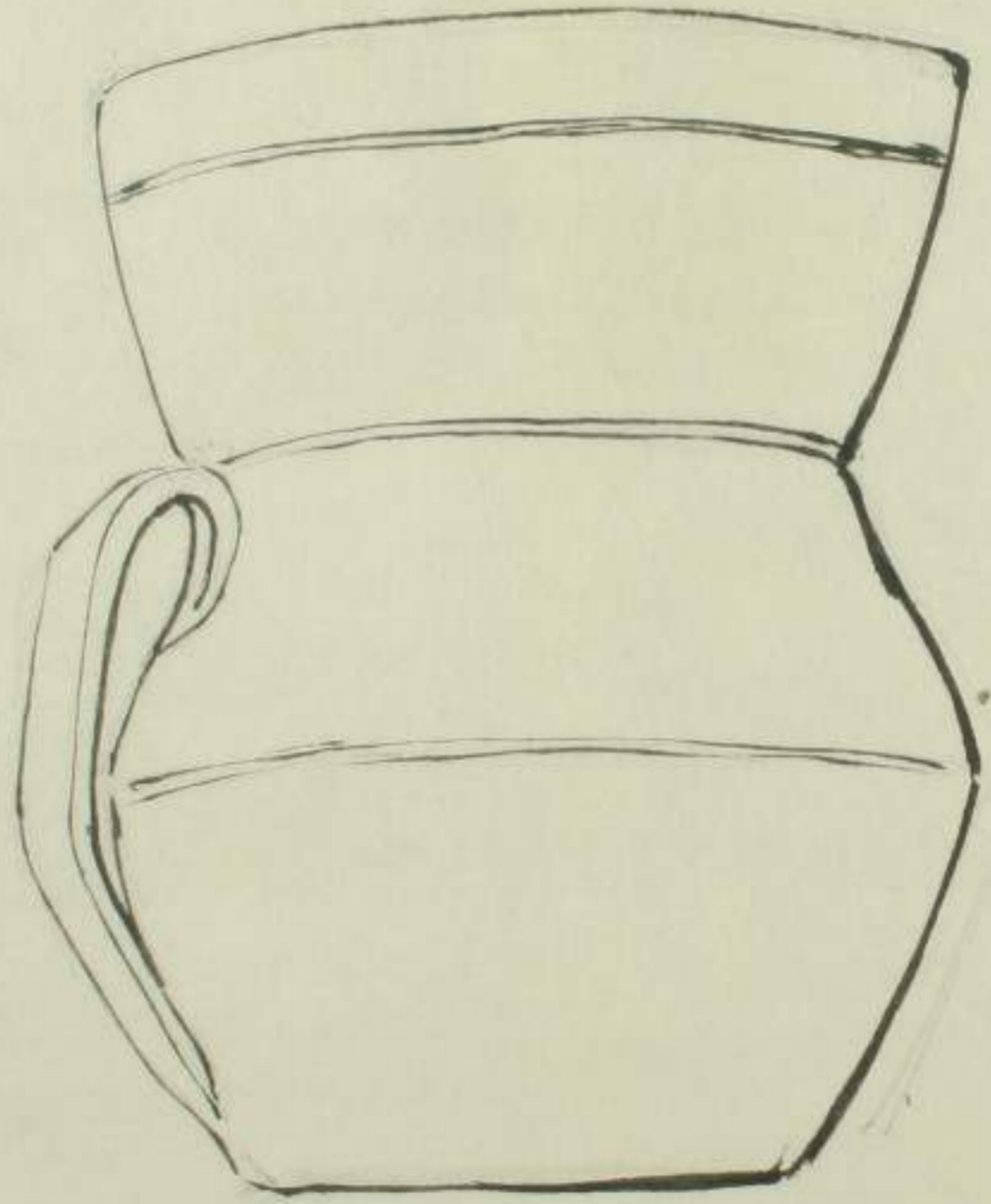


遠少

上野國碓氷郡八幡村大字  
 下大嶋古墳 祭器品  
 根岸 武香氏藏

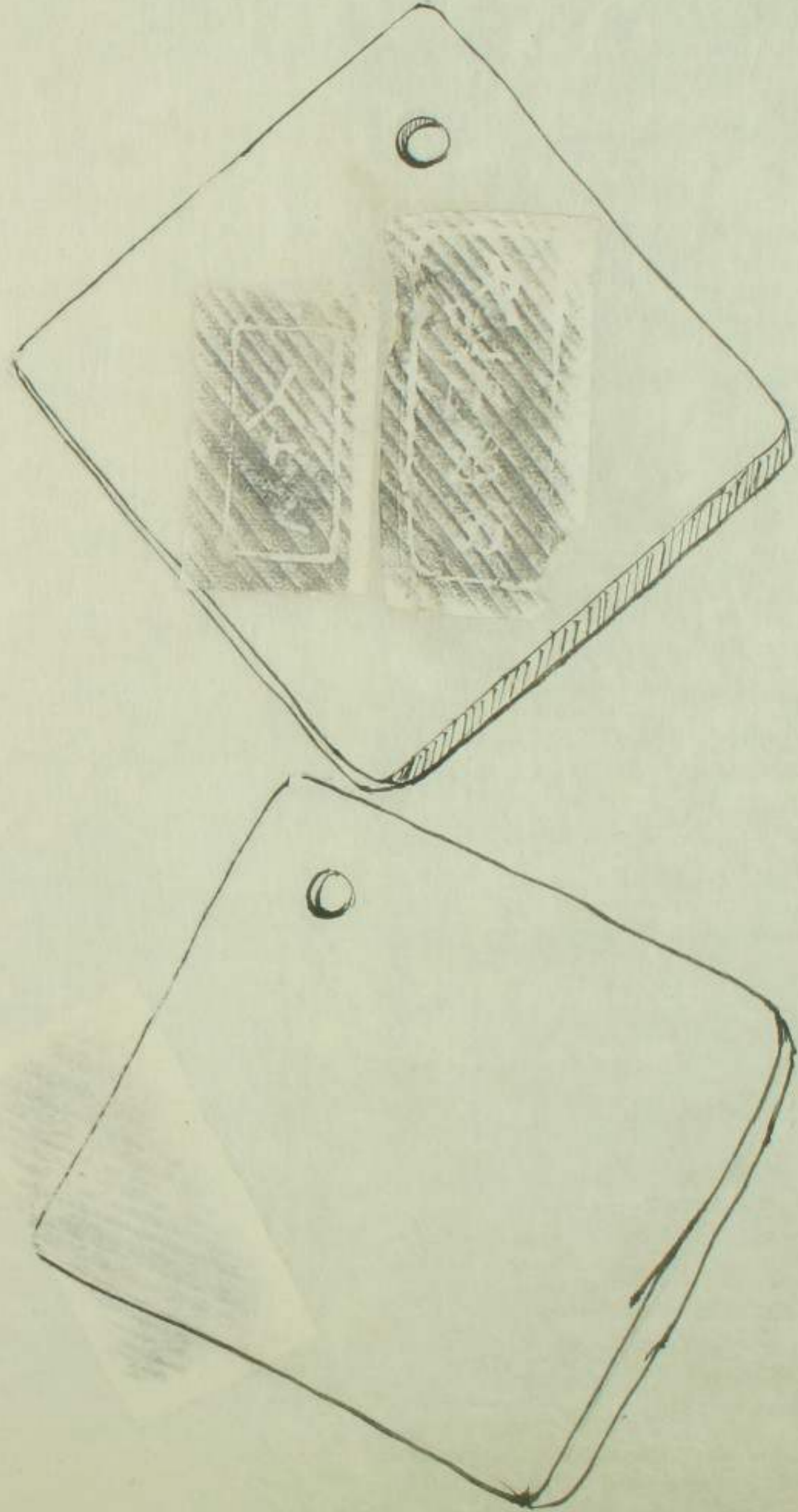


朝鮮土



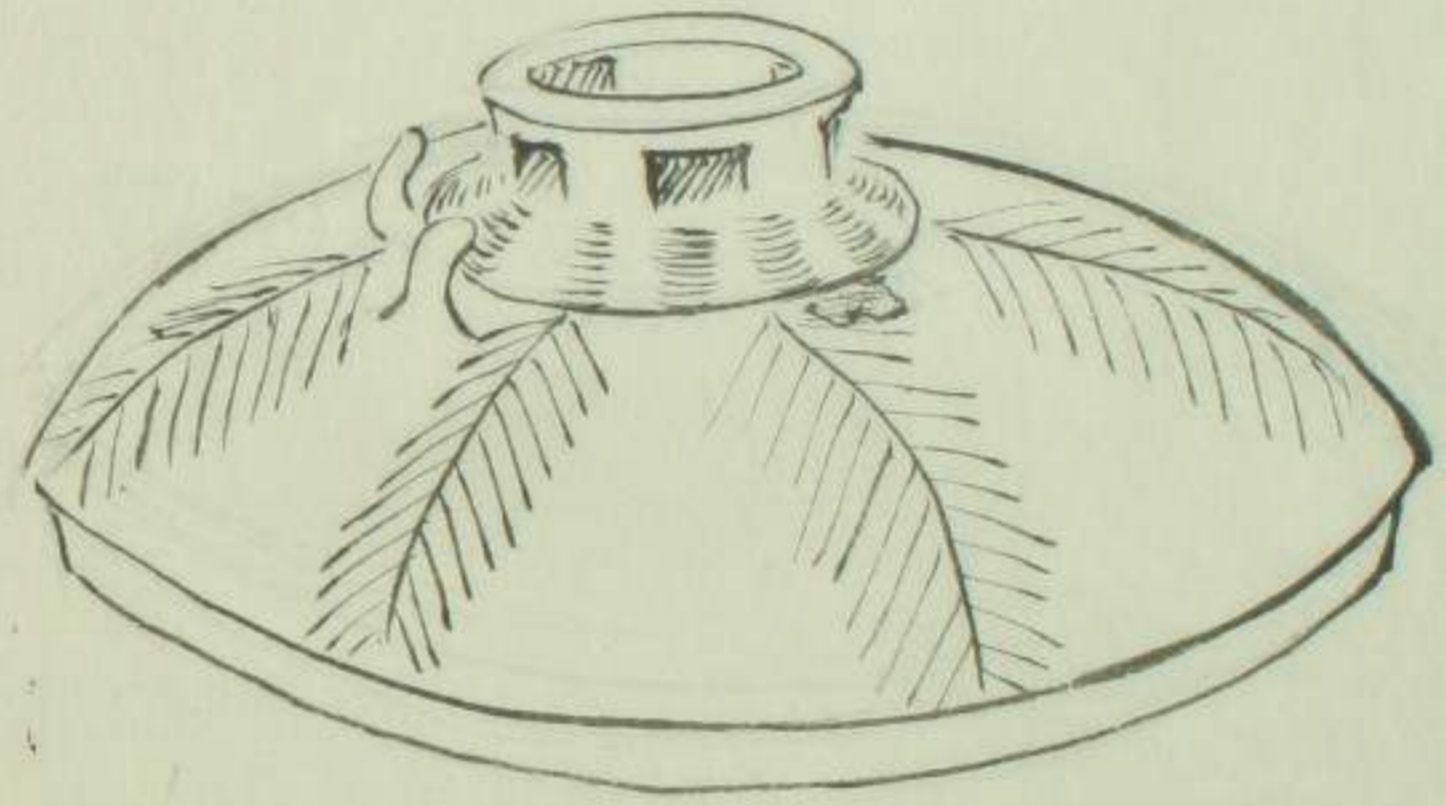
磁器  
土器  
五  
五  
五  
五  
五

日幕  
吹上  
水庭  
方人  
豆札





新  
鮮  
出



磁  
部  
氏

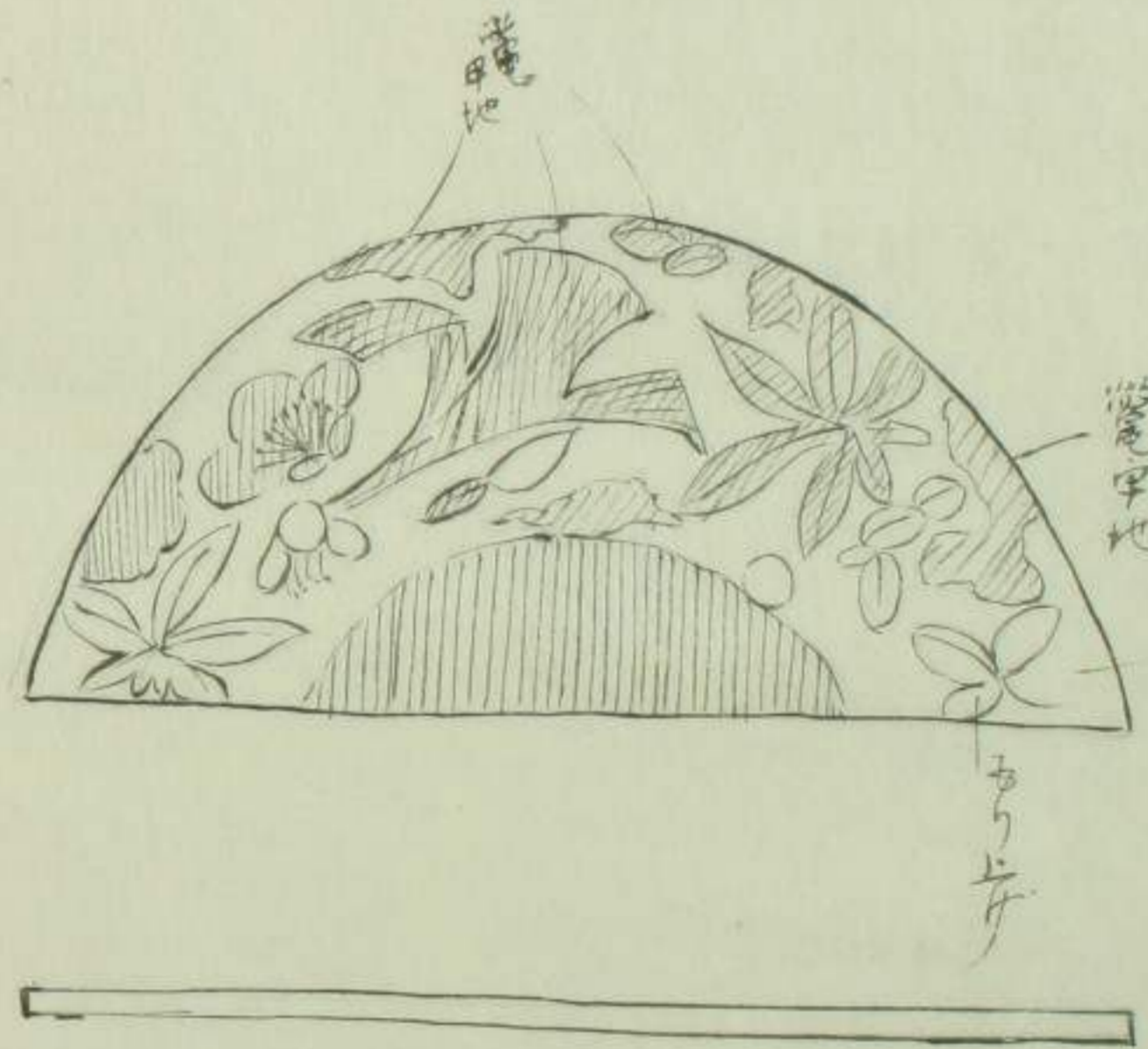
奈良縣北葛城郡箸尾村  
土製百万塔



中  
沢  
澄  
男  
氏



元祿稻



金時

八木堂之氏

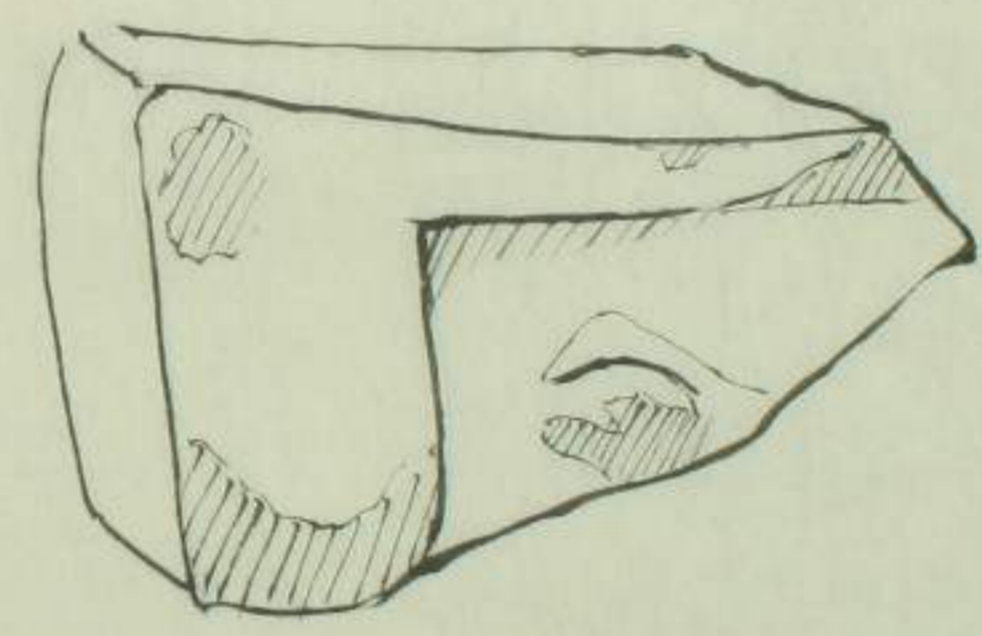
埴輪土偶首部  
該兵國橋樹郡大曾根村古墳出



沼田頼輔氏



安土城古瓦



中沢氏

剃刀

此剃刀は我輩に出入りする石工の先年大森村より我輩の石垣を  
 多げせし時得たるものありとて予に贈れり今世に於て剃  
 刀は付丈剃いと云ふ者にて幅廣く長さもいと多しと云  
 へり予々集事舎にもちて博識の人々に示したるに曰く  
 此と云ふものにて何時代のものなるか定らんにはし  
 らずと云ふに因りて諸氏の鑑定をまら



下はせし折れしと云ふ

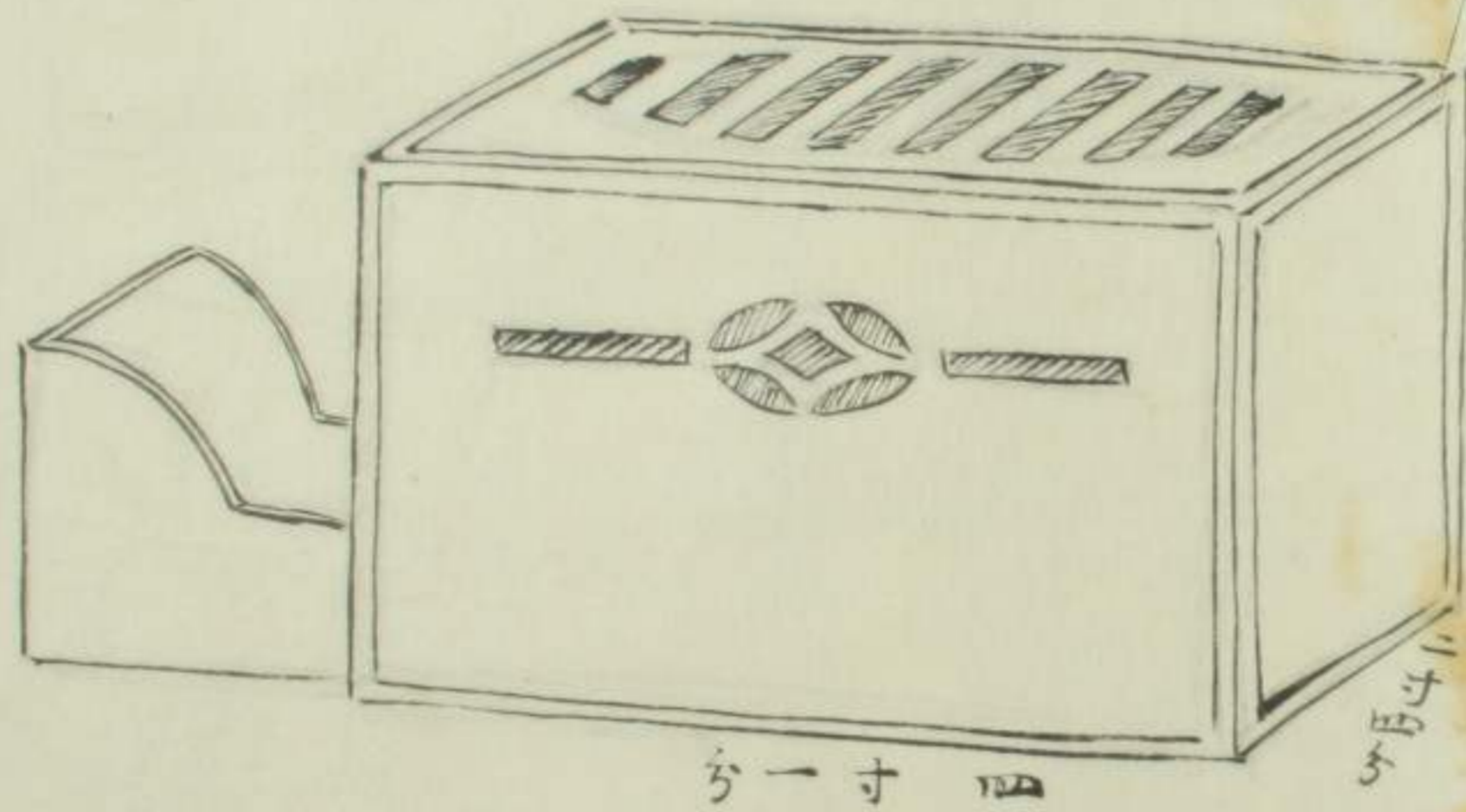
内側は丸なり

内側は丸なり



万治年間  
香枕

惣黒塗



裏に研路あり  
二寸九分

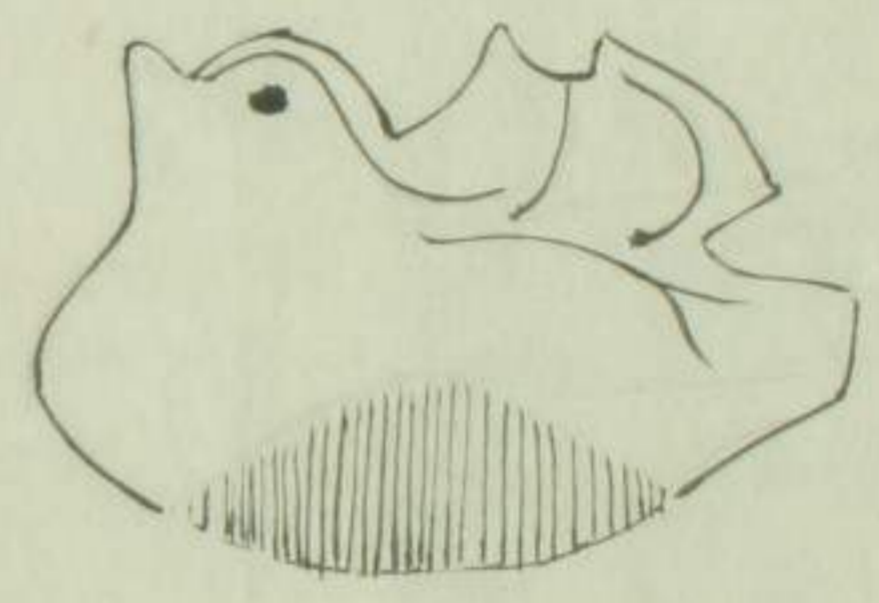
村幸出点



村幸蔵



備中松山田舎  
う井うん・クシ



加藤 氏藏

商標

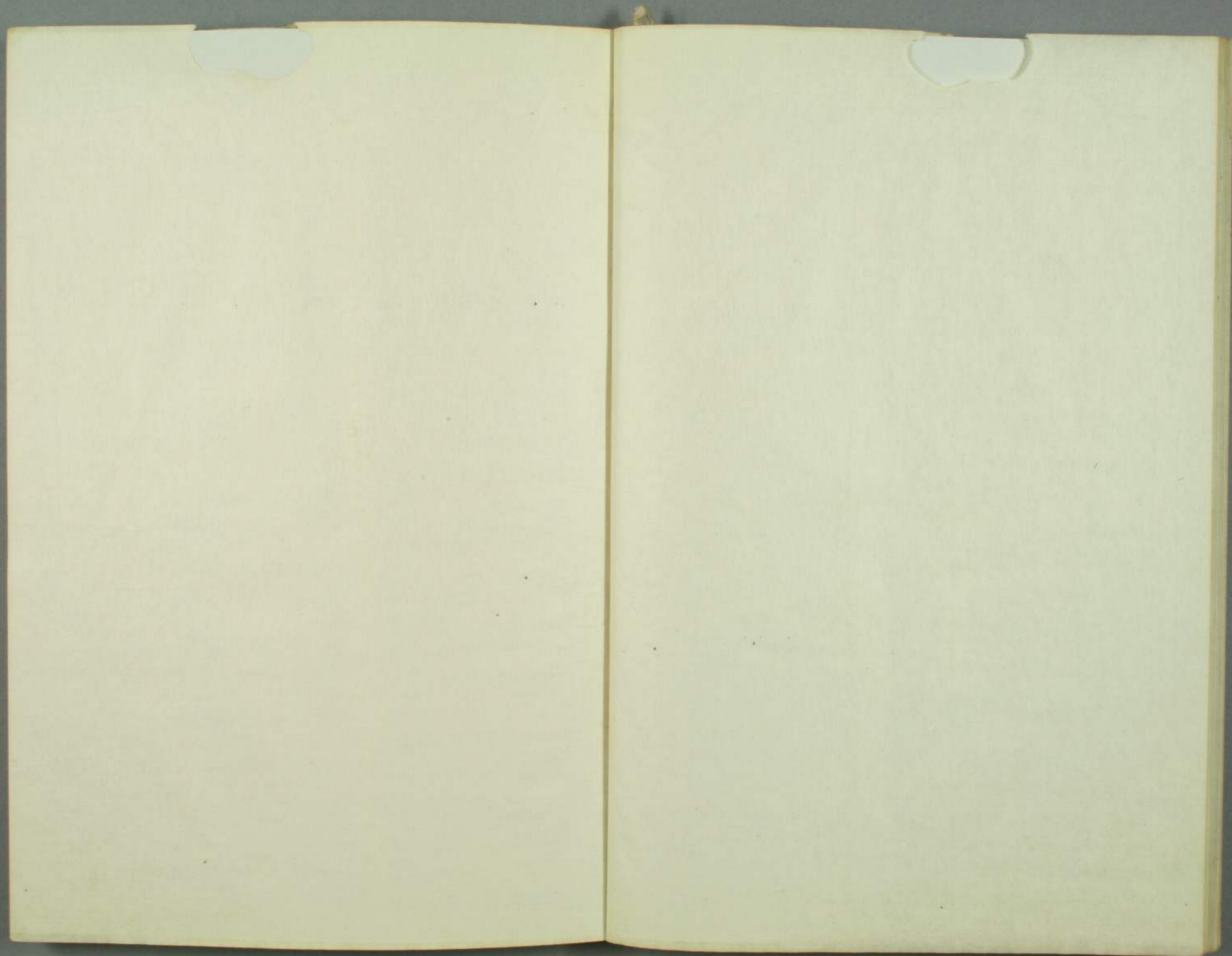
長く みる  
うさの のく  
古代 **おねえい**  
はく や  
あはんと  
あはまよ  
よて

あつちのよけとは素蓋烏尊は故に  
よか

伊豆の桑  
あはな 柳 御櫛  
湯 もと

さあせんにともあけ中にとをいれ  
ゆる急匠もをくらし 明治  
十五年の春りさし 雑法の表に  
あはなとあはな湯けはあは  
いとすのりさしこののりさし  
とあはなかき三の向を中に置  
て湯合はあはな湯とせしむ日  
し趣向あはな







銀製 盃けり

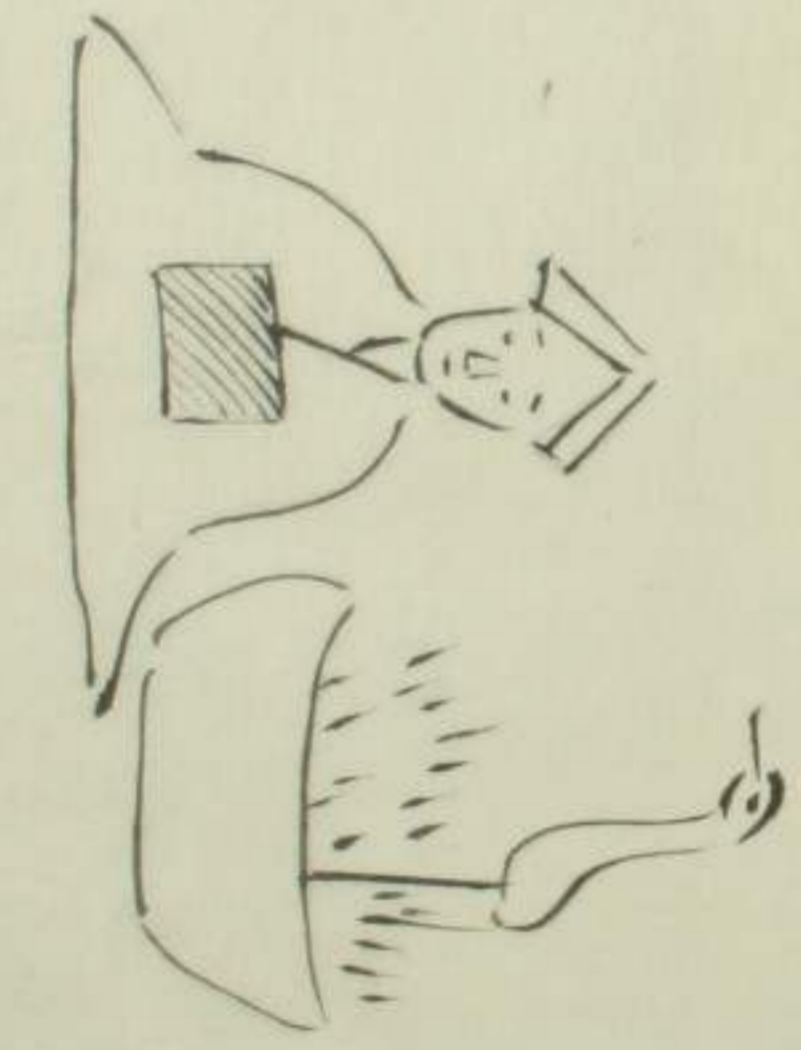
庚子の亥浪心に赴きて  
 生る言情女と訪ひしは  
 四氏に傳ふあふちの如日甚  
 に 偶日川 楮はききとて  
 こはは真御けりしに銀と鍍も  
 ちとと無是の非しと楮はきき  
 ち江空を文化文政の比を天保  
 止流りしものもろく成る中  
 去るやうのといふ  
 福致に教を付けても処よく  
 ありて金足に此ものを陳も文  
 政の錦徳と名ありしに  
 して風俗史料にありしもの  
 たりしかば浪華の空を  
 是もて後期にあを偶日川楮に  
 ばさみと題せり  
 とありしに此等の物ももの  
 こもくに製せしものにはあり  
 正き天保江中なるも  
 ちのふりをむねを  
 百済成りふは銀向をとりはは  
 陸を用おてけしやる料  
 にけりしにさしはよせのこも  
 ちもてけりしは若くは若  
 ちもてけりしは若くは若  
 下りしは若くは若

こは下恩警行を味各太夫の  
 盃とけりしは無波に  
 けりしは若くは若  
 者のこもてけりしは若



蘭田之村目録

村寺外志



乙とふく石

たしとふく

とふく

とふく

京傳





年間頂カステイラの張紙



此所張紙の用む

此菓子此紙不用は  
買請は下止持ま

其次は菓子も此紙は  
あり久す時とは  
此文句より久し  
て使用せしもの

元哲寺淨福寺半町西入  
御カステイラ司  
花乃家春重

和蘭陀直傳カステイラの優ハ他の菓子と異ナシク

益有チ本と原を命家祖長陽よおみて菓子に極

急直製を傳得し後を製するたれ付母とあり

日品ありといへも風味その亦他は異あり才一財精と論し

此膳と補ひ気力をます故に毎病を治すも疑し

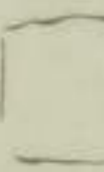
又暑元にも冷ぬ寒元には白湯酒の肴と大根を

山葵をも用ひわつしてその宿酒流り此の格りよ

四方も菓子よしく用ひす其の能知りあり

此用

元哲寺淨福寺半町西入  
花の乃 春重製





京都壬生の大念佛のとき〜の画

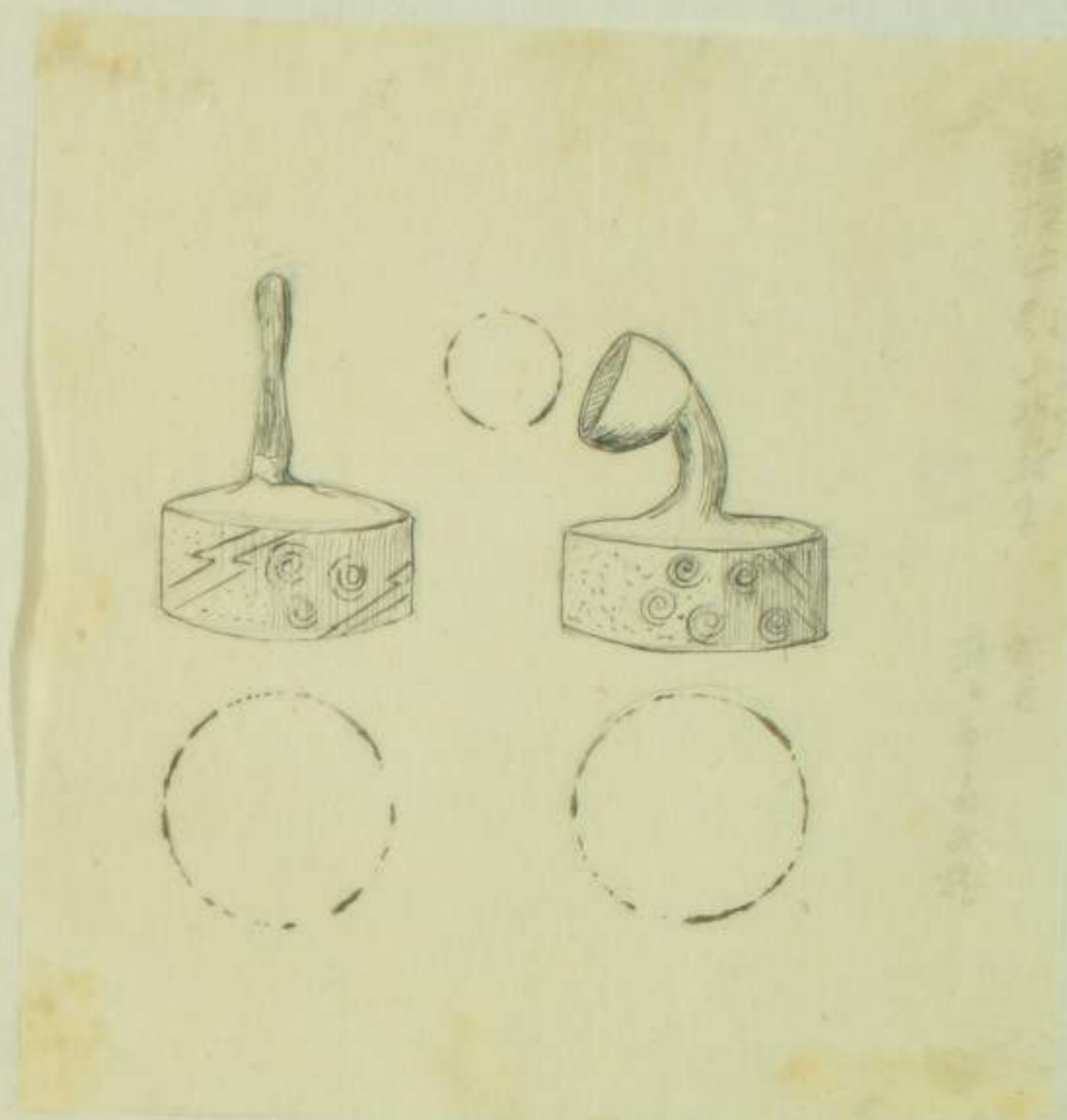
稍笑大



新改立春七福神双六(元文以古版去昨法世享百六十年分)目錄

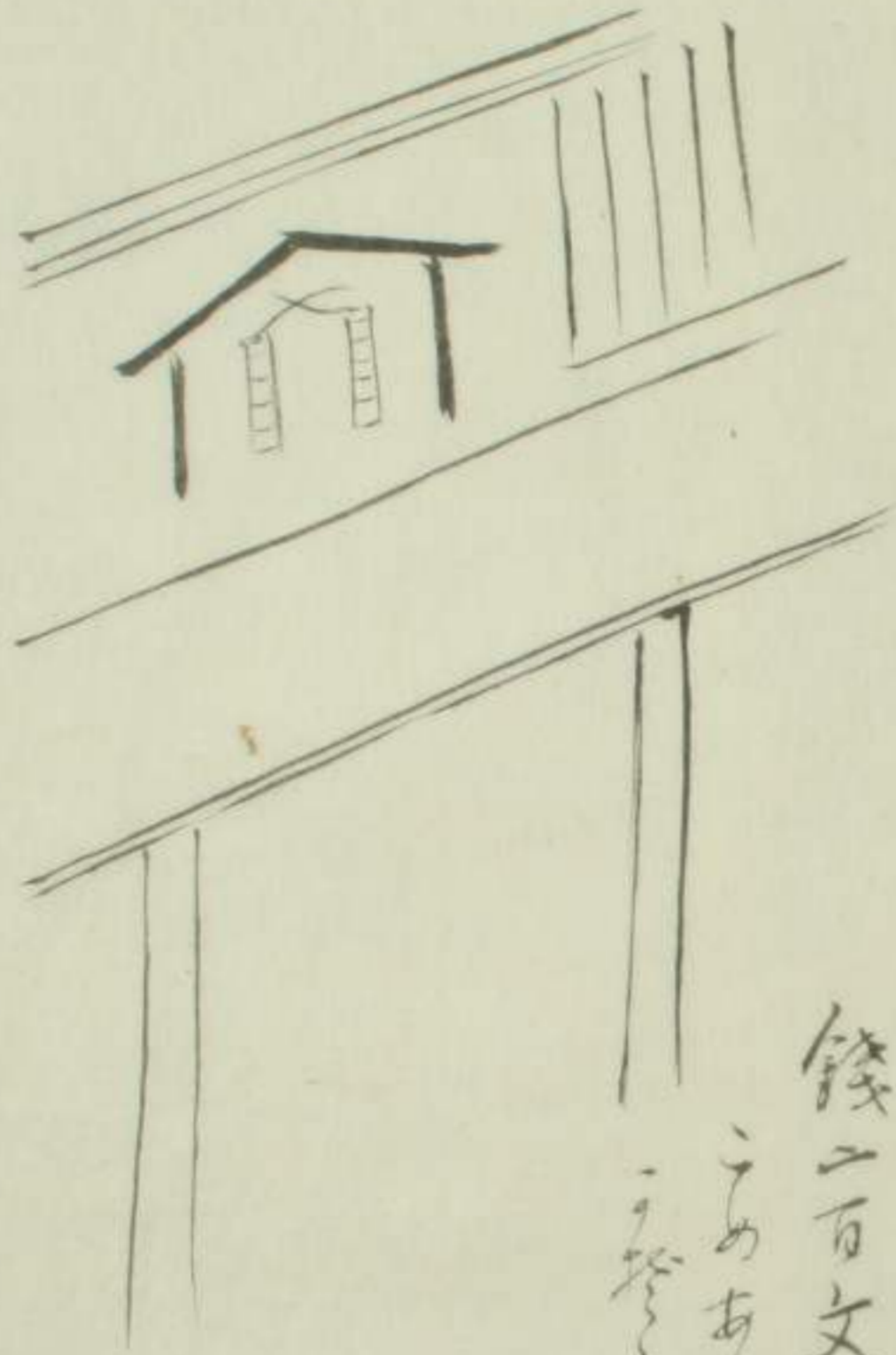
おいふく、さるきやし、まんさい、まほこま、りちんほま、  
このめまた、まらぬずこ、いりのゆ〜らぬ〜、  
う〜し、まね、福まつり、あらびき、いりふく、いちねま、  
きくじとら、ふひき、庵んてん、まや、い、さんごじゆ、  
たいふく、ちやう、まらぬ、あらし、まひた、ゆ、あ、せ、  
ちや、大ぶく、めい、う、せい、ま、あ、ふく、し、や、あ、ん、  
ふく、あ、る、さ、う、す、ま、ま、せ、う、か、さ、こ、は、ら、ば、  
あ、ら、い、さん、び、し、や、ん、て、ん、ま、ち、し、や、う、て、ん、ふ、く、あ、  
し、ら、庵、ん、さい、て、ん、あ、て、い、たい、こ、く、ま、ひ、た、う、ま、あ、ん、





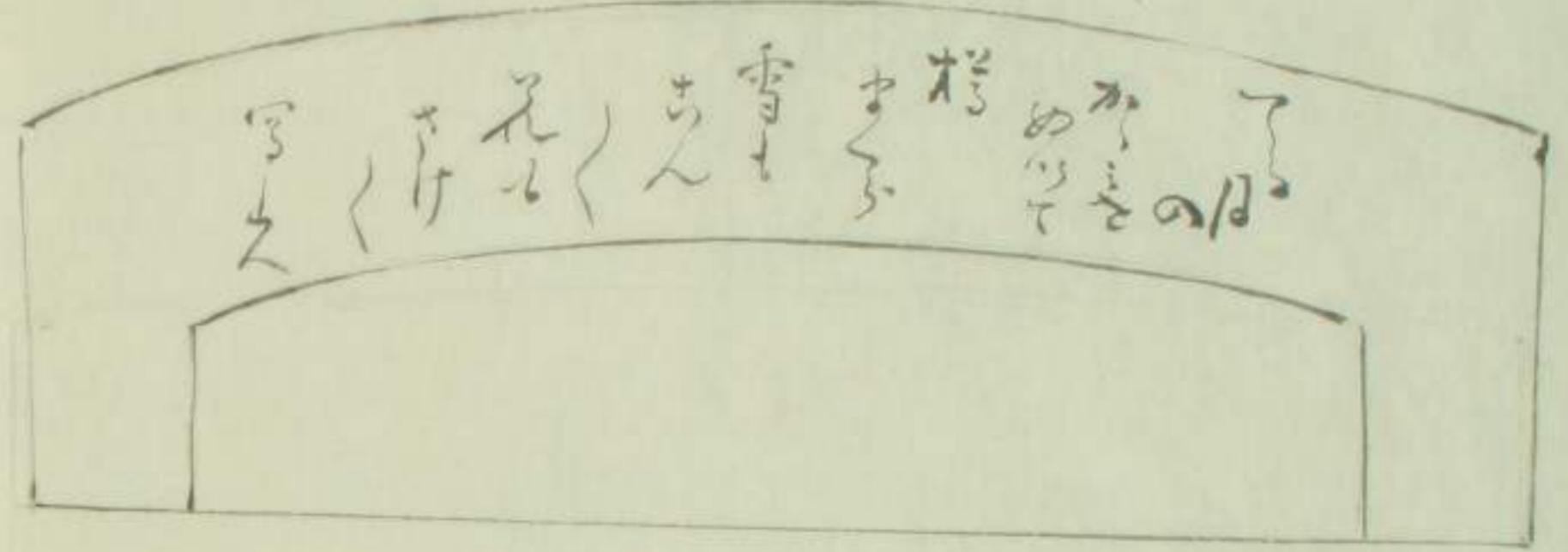
相模國中郡  
山背村 癸見  
或曰 亦之 氏 氏



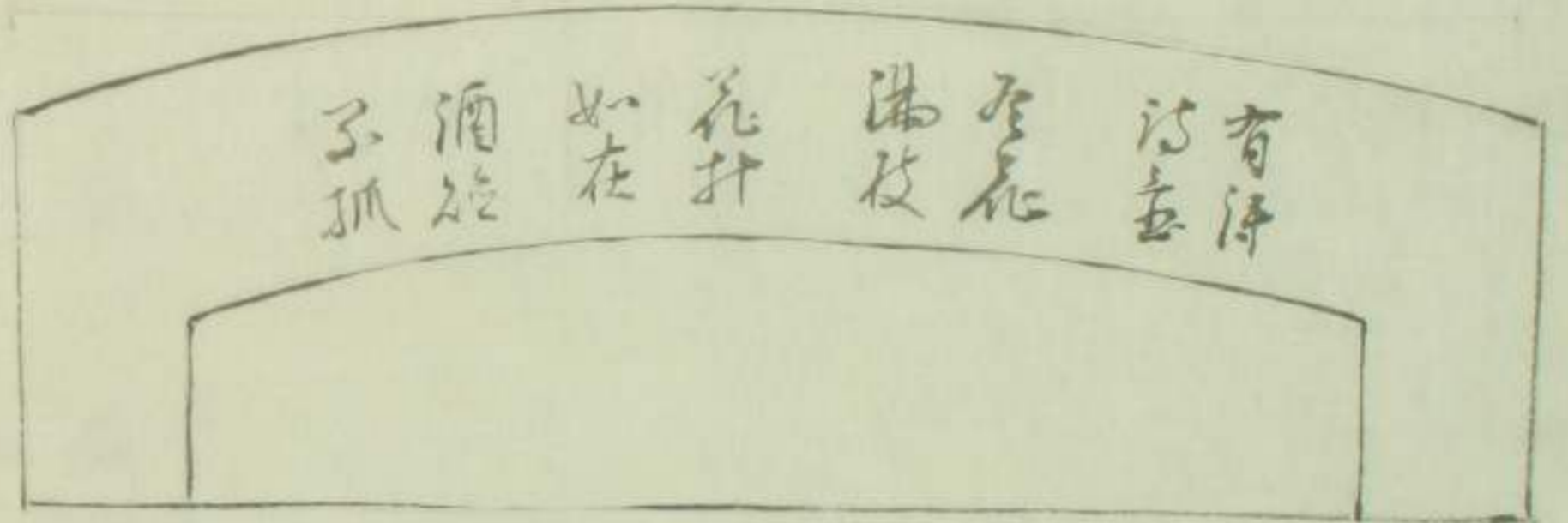


あふちのや日算中  
 絵本名お浪のあふちの巻の二に

本所橋筋谷所を東北側大木根のた  
 銭二百文といふりのうちたぬり  
 このありほきいたれの指し  
 うたふふにあをあきうり



了のほ  
 かしき  
 めつて  
 様  
 まふ  
 香  
 かん  
 花  
 く  
 け  
 く  
 字



有得  
 詩  
 花  
 満  
 枝  
 花  
 打  
 如  
 在  
 酒  
 孤  
 不

十種有印御の記後

戯歌

註冊

日の本にまたたき

めらもあひ

あひ

アノカ松はとて

いに今

在記

有印御の記歌は珍也

とあ

(あふちのや花)



大坂桃山  
細工谷畑地

土馬

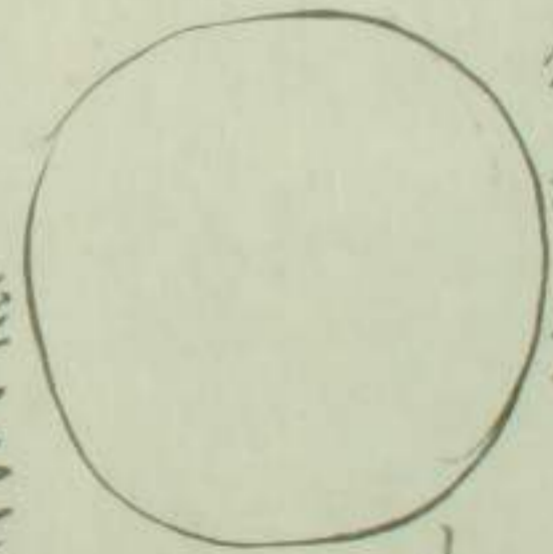


あふちの  
生田衣

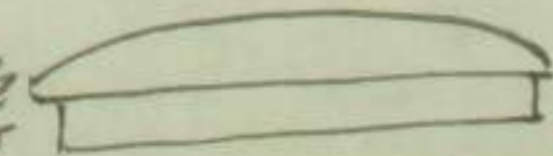
実大

あふちの石目茶中

攝津國豊嶋郡豊中村大字振隊  
五日陣社後宮山中俗稱石振隊  
中倉力造所託



青石



径一尺余

厚二寸余

明治維新より少くも壁土とと人としては石  
振隊と語りしにたり一尺有餘ニ七  
二尺余の樹物敷個語りおしたり此樹物  
の上、圓の如く、表石にて精巧に造り  
蓋あり

大坂桃山

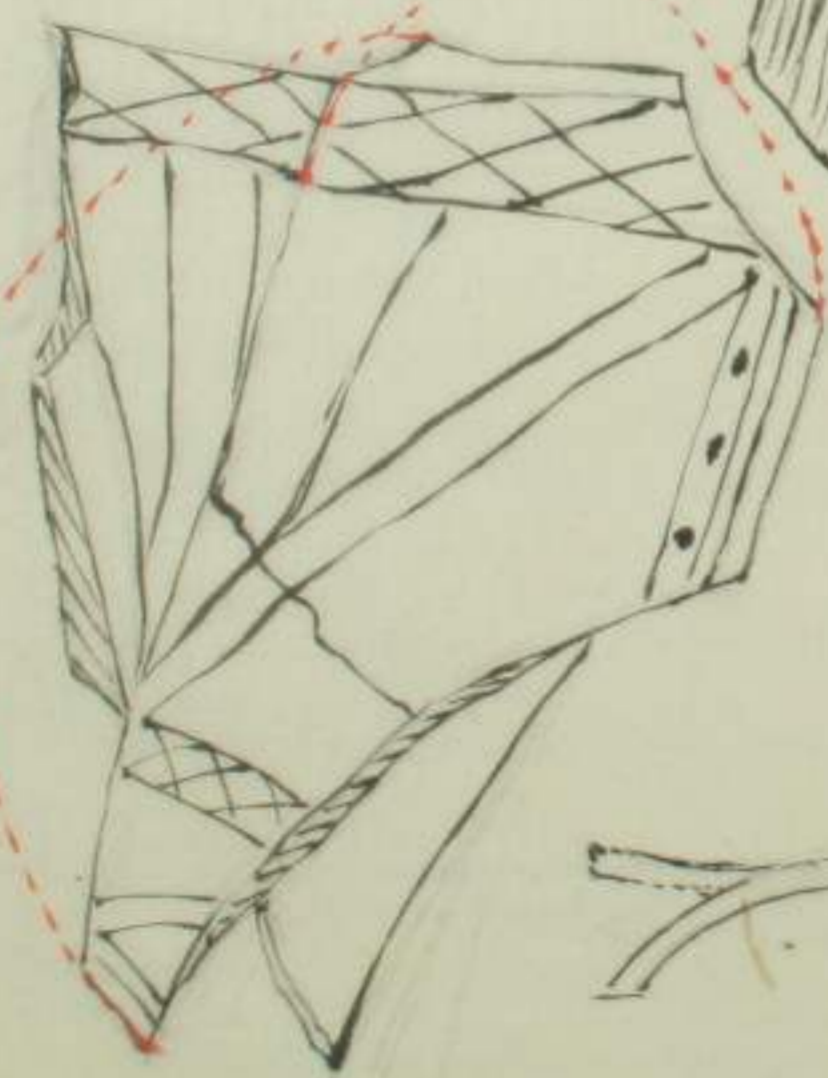
桃山上宮字小石谷  
生田古墳衣

生田古墳衣



実大

三寸

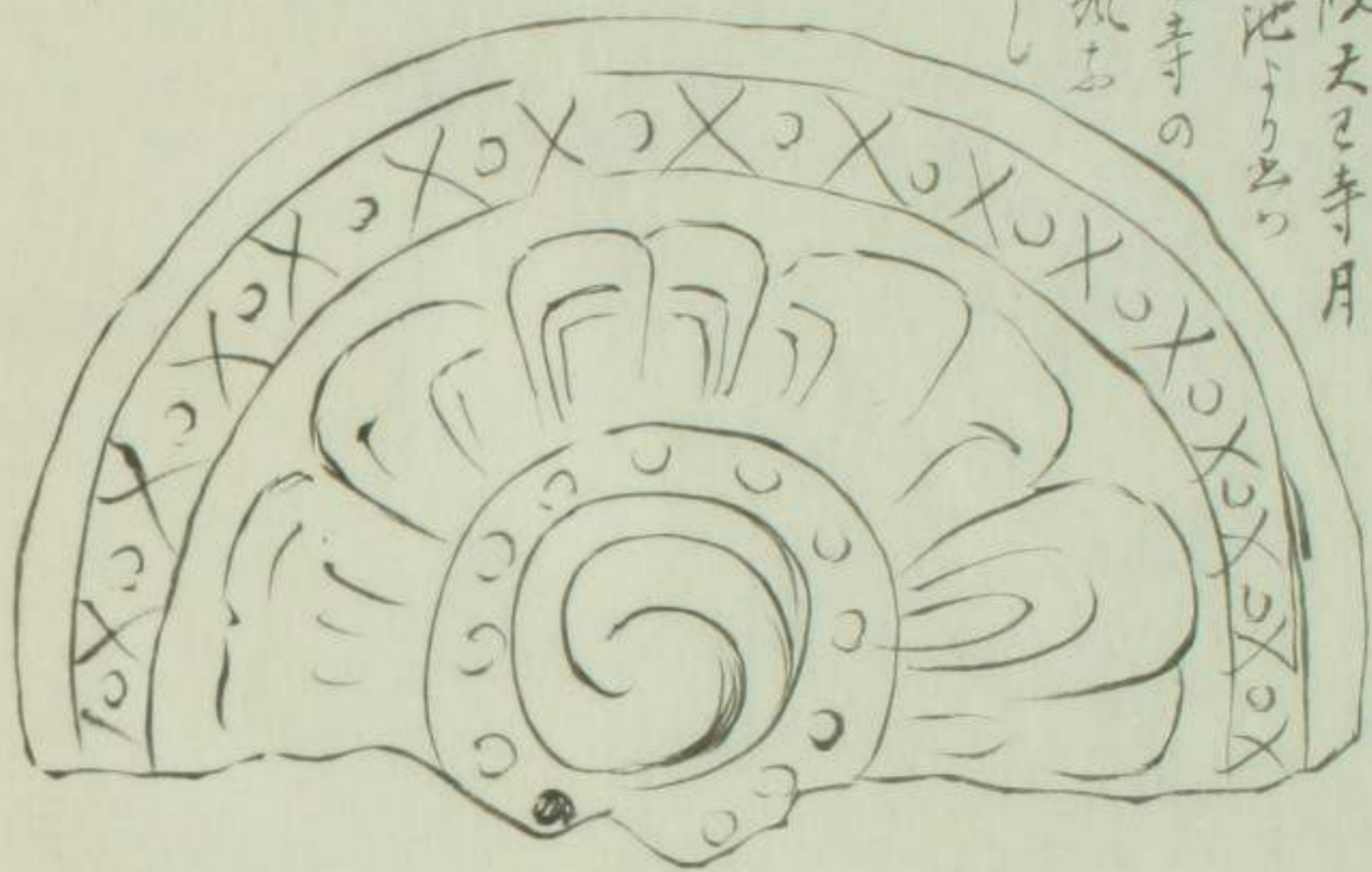


七寸

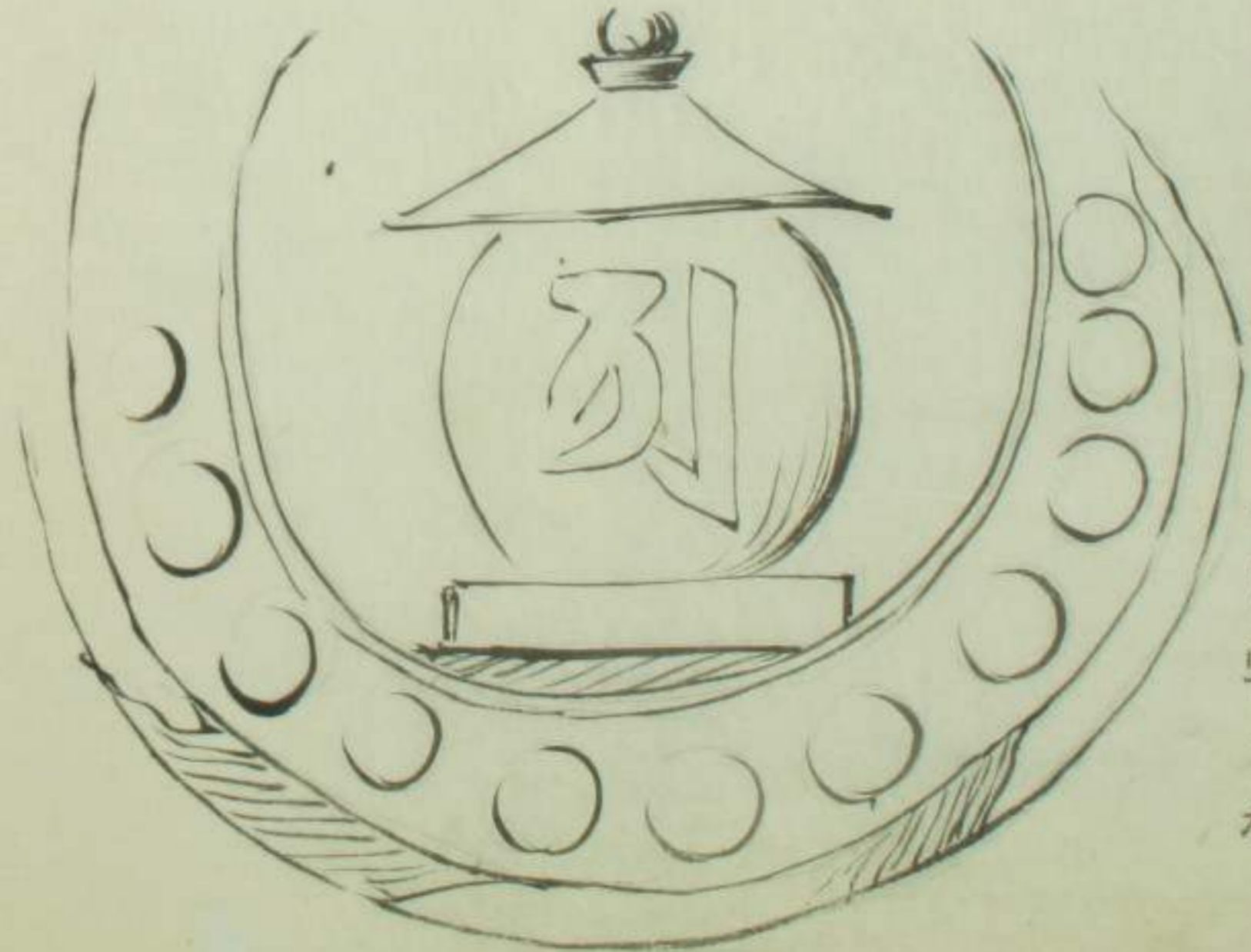
楯の一部あり



大阪天正寺月  
無池より出り  
天正寺の  
古丸お  
ころし

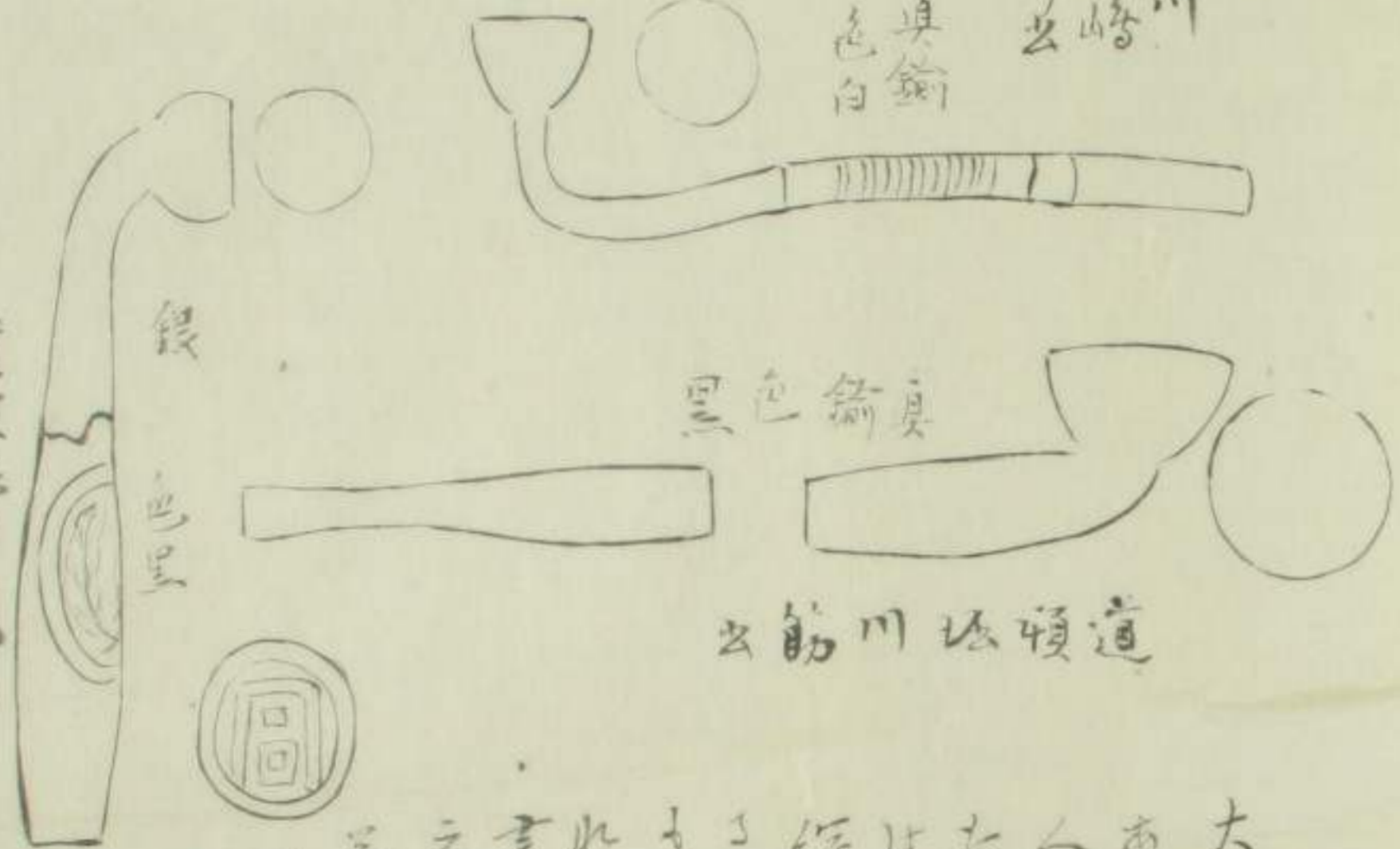


河内國駒谷十六山寺劉輪寺丸



淀川  
細崎

真鍮  
色白



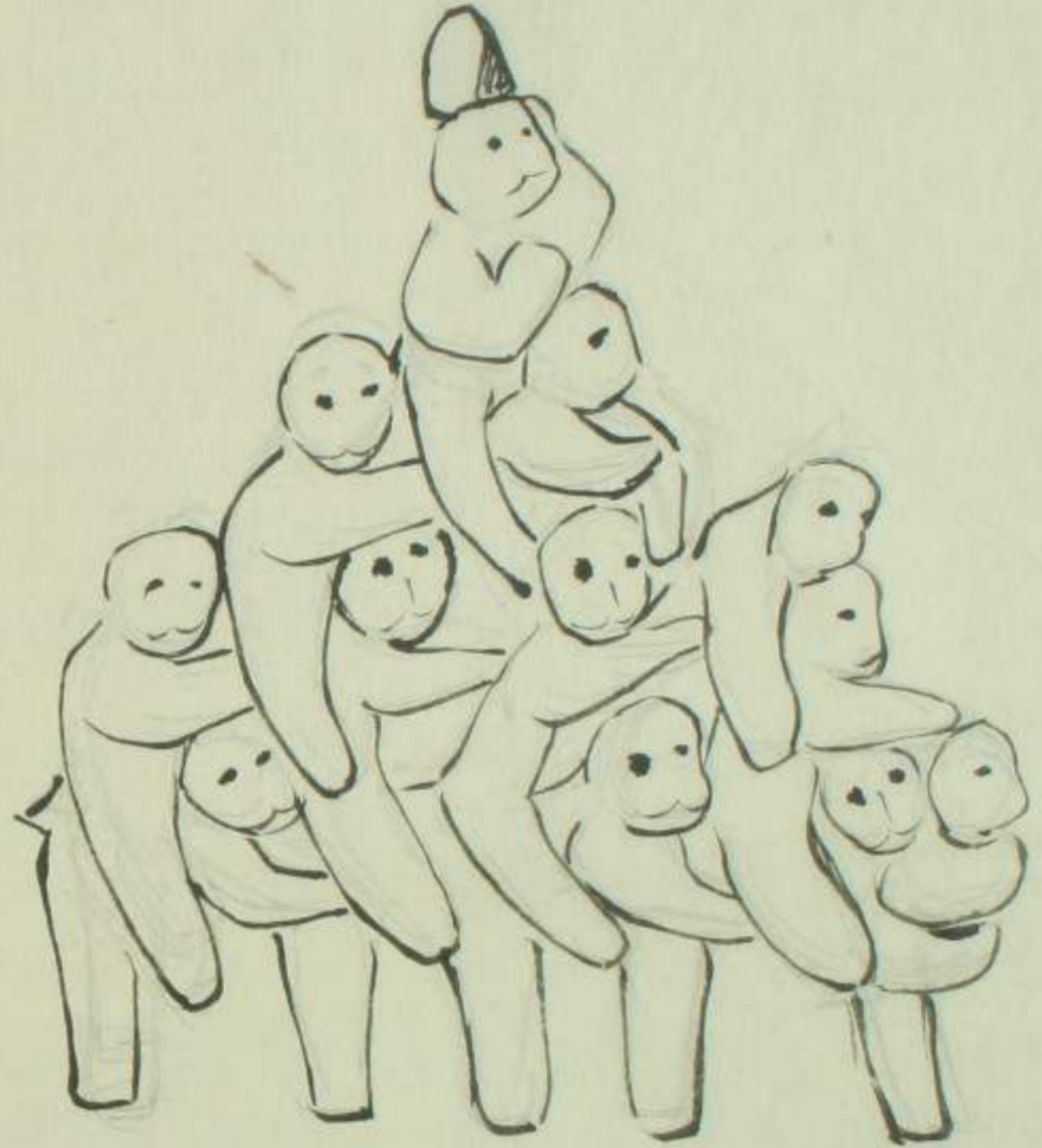
道頓堀川筋云

道頓堀川筋云

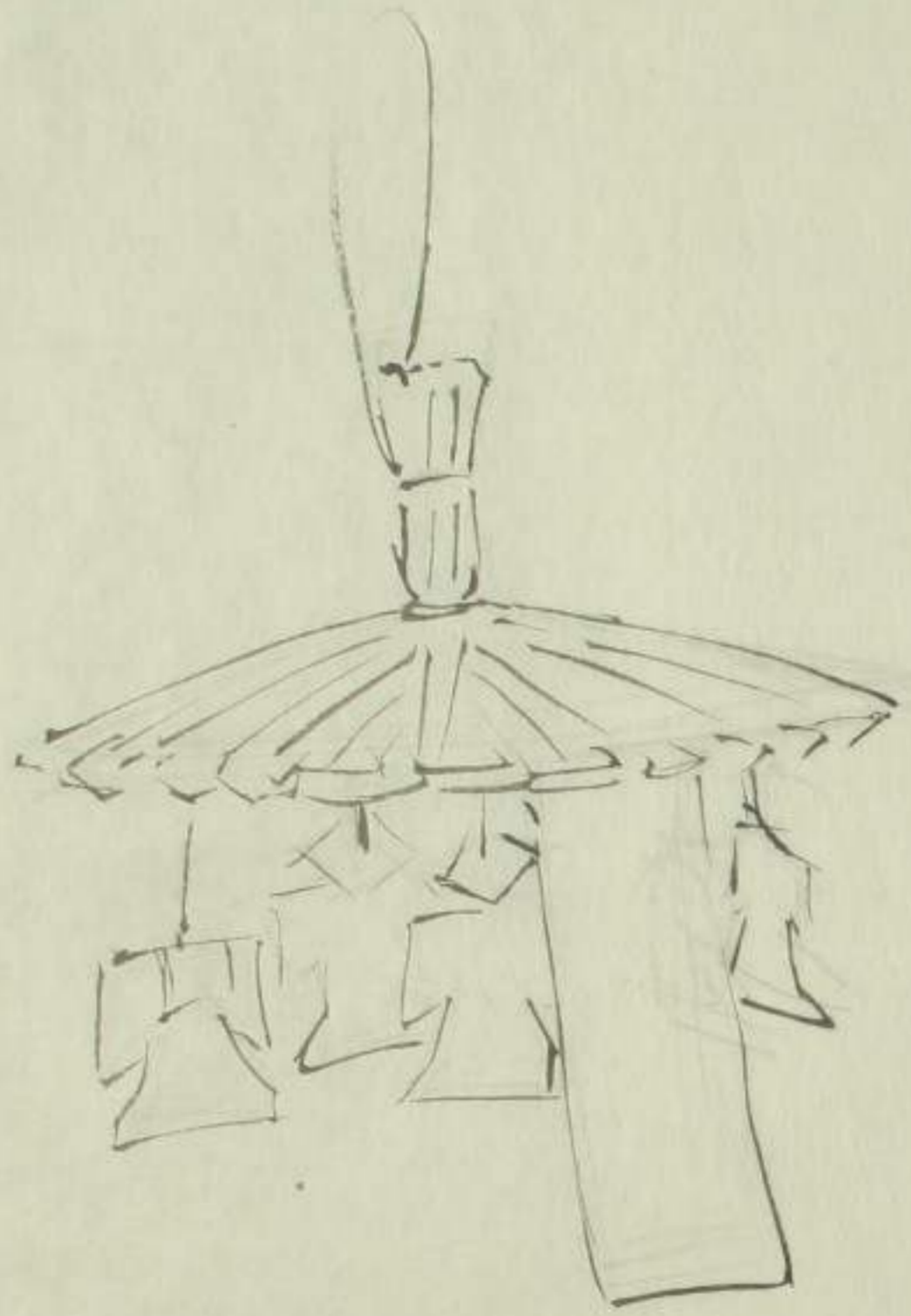
大阪淀川筋云を以て煙煙の雁首の形に  
あてこは此川を上り下りし世名筋の形  
人の弁はたに煙煙の形に上つるお枝サ後  
たるそのあつしおぬすの中人にと古の形  
は珍かかあつしもの少くも上は圓形は  
雁首の形に上つしを雁首の名に買わ  
す様にして杖は真鍮あり又大坂の川より  
小おと古の形のもの古の上圓の中二圓は  
此ありその中面白きは抱き物に丸に同の字  
言さあつし雁首ありは紋を圓一足は  
之餘項も並りに推す。休後佐藤川万  
菊の役所にて形もその時代のものあり  
日後の手にしたるものもこの疑いの事  
あつし幾十年月泥土に埋れて又日つて  
仰りし意は古上油れ荒し金をそのに移り  
変りたる世の有様に驚くありし  
以上生田氏記



位吉の猿



位吉神社の境内にこのもの  
 もある位吉頭の筆とて  
 の土細工に作る猿あま  
 内々猿のあまたうさぎ  
 下なる形し多々あり  
 或人の猿のメ、とて  
 の喜々の字に通じて  
 目も度けなぶつくり  
 してふハあまのこ  
 ろぞ

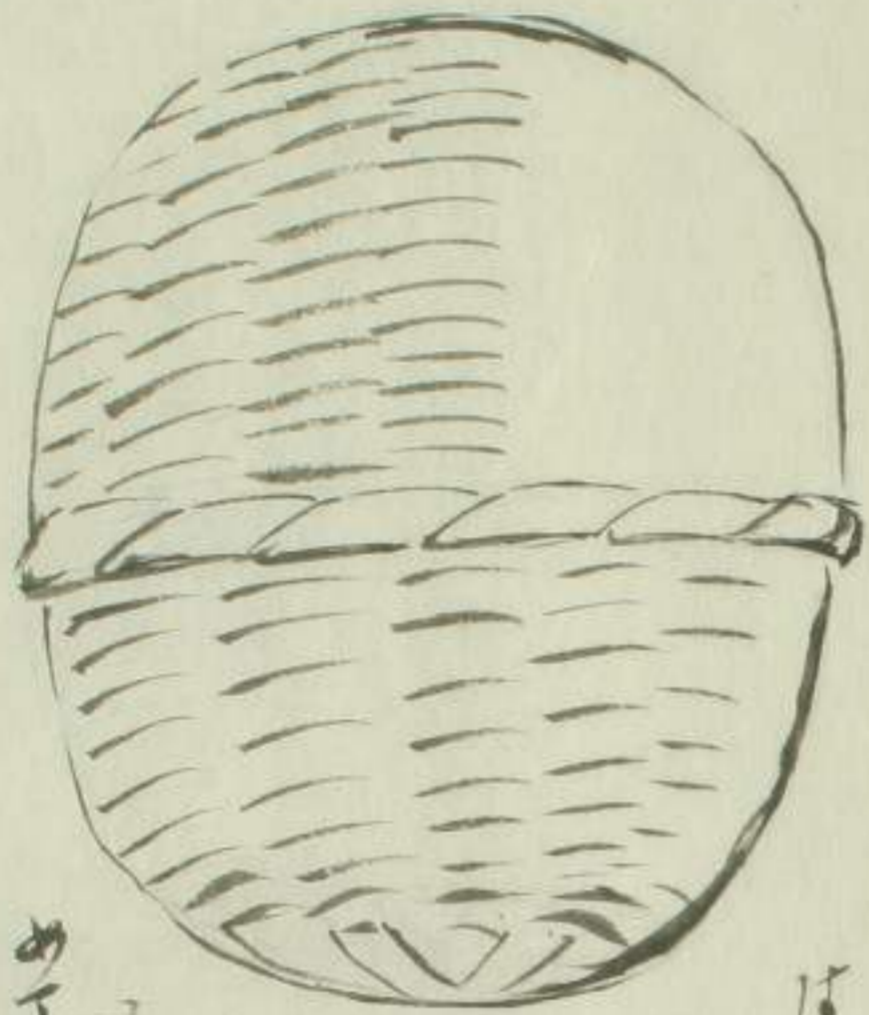




小まき茶屋

攝津名所図説、小町茶屋  
の図あり女長と柄の茶屋も  
余も旅客にすむる所を画けり  
上は余の錢は十文をたごりても  
予もにさかせぬ柄の長と柄と  
加高とのせたりぬゆゑゆくも  
あゝか洋かかふるはいと名なり  
ゆゑ早く絶えたりあふちの  
ゆゑは余の錢の焼印をたごり  
上はのたごり所なり

奈良茶籠



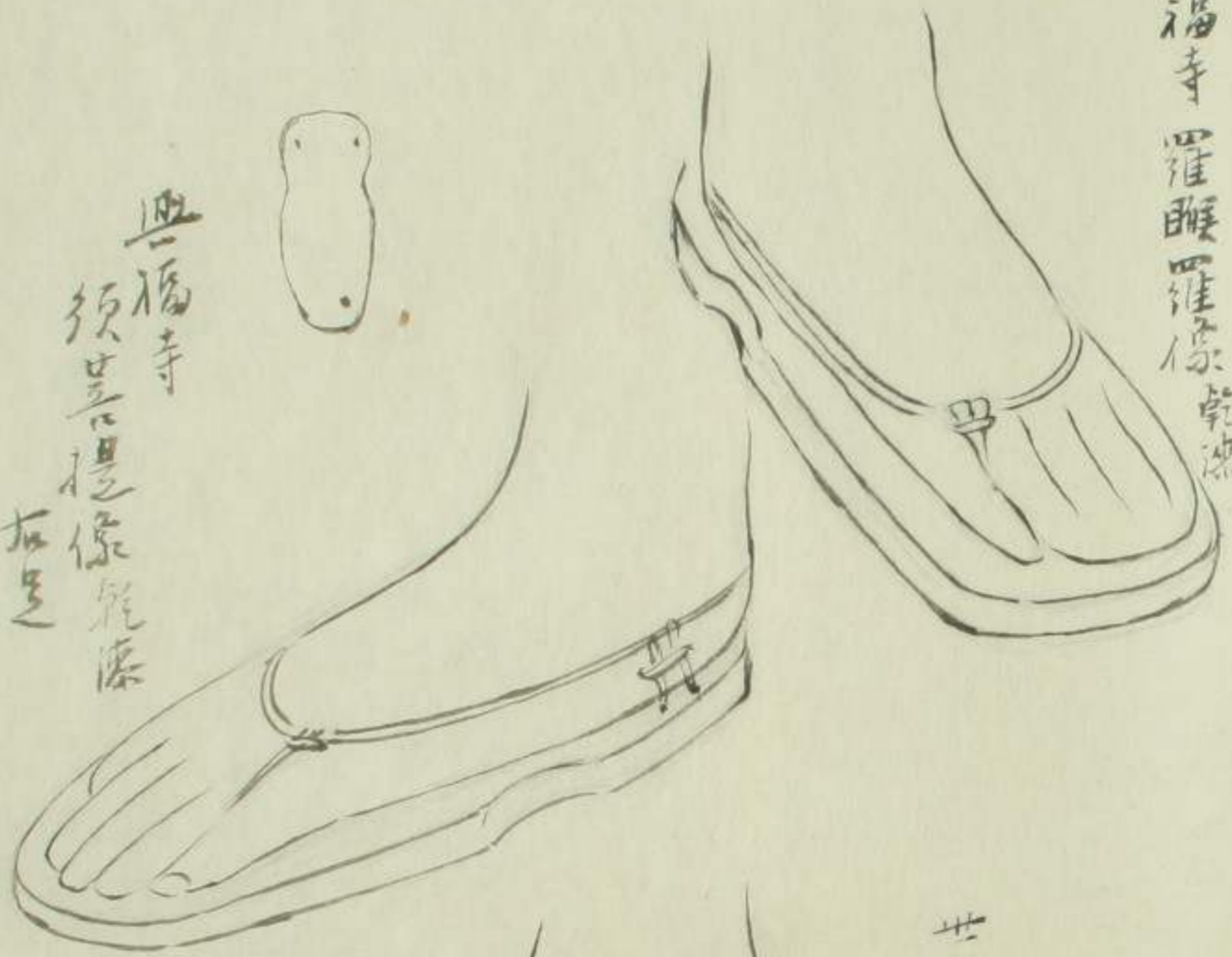
世有の佛席の籠に  
余の茶の籠は余もは余の  
又茶も余の籠は余の籠は余の  
名も余の籠は余の籠は余の  
則三石の内とありし余の籠は余の  
は余の籠は余の籠は余の籠は余の  
爰に奈良茶籠かごにありし余の籠は余の  
三寸ワヤリ二寸けりし余の籠は余の  
籠は余の籠は余の籠は余の籠は余の  
おとせし籠は余の籠は余の籠は余の  
おといふ籠は余の籠は余の籠は余の  
籠は余の籠は余の籠は余の籠は余の  
めて格りぬ籠は余の籠は余の籠は余の  
里にて知れし籠は余の籠は余の籠は余の  
昔知れし籠は余の籠は余の籠は余の  
大坂の籠は余の籠は余の籠は余の  
の籠は余の籠は余の籠は余の籠は余の  
いふ籠は余の籠は余の籠は余の籠は余の  
籠は余の籠は余の籠は余の籠は余の



名良の醫師を以て若る山の球戯

名良の池の側に若山と名する醫師ありて年々盛夏の候鉄砲風  
 名を若る山の頂に上りて上りて此に風を多く知りて人に  
 浴みさせ終るは其湯を流せし上りて人送とあやてう此風を捕を  
 ければ捕はまりの孫射して樹蔭にありて破れ果つて家倒してを  
 保の次より年々に此の事か維新前にもありて統一して終りい  
 るるをも起りけんすりもりぬ  
 若る山の頂より若る山を鞠をふりて射すに途には小き  
 輪と云つていて此とまりの滑りたるものには足物と云ふ人戯あり  
 こは近年は浪華遊は新地あり見山分三者と云ふ老妓客を伴  
 つてここに遊びしに若る山に於ては任利と投げた白肥強  
 き山ふれん共にもとまりすもふると世射の山にさしてさして  
 もととして今射は始まりぬと云

興福寺 羅睺羅像 乾漆



興福寺  
 須菩提像 乾漆  
 板造

世尊寺 役小角像 木彫



下駄の割足とてそよ部像の  
 虎もこれにさして柑せは  
 正中にはあいな様と云



白毫寺  
蘭麈王木法

奈良添生郎  
白毫寺  
俱生神像木法



奈良博物館陳列

しべり見たり持の筆



以下  
4 丁  
白紙



狂歌張文雛屏風 一雙

明正徳三年三月 日

真名合

高田万庵書

三陸羅子當時の狂歌とあつめたる版も好みのものありて  
それ迄を非し糸のぬ濃丹の甲る華にして多ればなほ  
ては三文字よりさるもあま

盆の松のまゝ画をあらうたふ山の雪の白酒

後人

盆の松のまゝ画をあらうたふ山の雪の白酒 十段九  
にはやいさびあふ棚のほしほもなほは都の手ふり人形 志砂庵

雛見世をよめる

何人のまゝ名も善治法に五門もなほはひの買あけた言 鳥人  
さかりにはつたをいひし少くも秋といつたうし一方のはれ 年井  
屋もえ櫛とくゆるは雛の志んてん典に教ある蛇の鳥 柳原の  
みさこまの榮蝶も花の雛もなほふたをあたてをいたさるぬら 千習以  
鬼役の鬼下にはくひてなほひ子の膳部の二十七才 千習以  
曲のまゝ人ともとめて言の母あつたか人多きに欠く盆 俣の雛



朋箱は面倉の本地の堅地にていつれもふけえぬ雛石 万石の丸  
たちふぶぶ京人の移りき中に野良唐いりふる雛のる餅 三陀羅

返子帖

阿ふりけはなまの干かたや春の夜たいつ一面具ひふふ人

侍りて歳年月をふふふふはたうしに雲をいたく 道敷

没きは六割半さうけぬしきおのさき古金ひいふを 面吉

ふしゆの解つぬなて五人七たんにあしてかき雛のみまはむのま

雛棚のさう位に丸くと解つぬ合せふ洋人形 五女彦 山井有恒

盆ととも手玉さうく顔のや赤地もさめぬ母の衣刺 浅草彦

鍛子幕ちうたはたまき初やに名付けてたつ古金雛系 後満

袈衣束はさく朝あやまやこれさめの下一尺の雛 与楽彦

以上

娘の節ちあはひの種の花さうた矢ひふまひふの才を初ぐ 苗水

むくろしのもこはあちこ棕の葉のみうさて白き面倉人形 羽金屋

金鏡

我ふるくたち続きたる雛棚の吹郎さくもとのくらくめてなき川面

うはぶのあも酒雲のまろ酒と雛合も雛の中人あり 湖羅針

ふとてはいつれも和歌の本直や源女ひいあ女へいあ 道中

北人えは矢若正子は月にほし幕布して足ゆる雛の重結 万文

雛布は言葉たつまをかうりて八重丸重にかけぬをそふ 金持

愛とていふと合の足振あちたのふは列海もけん 早成

雛祭

娘のめいひいあめ道具遠くのやりけたりあしなり 土三頼

新夫も継直さるに毛存をつるは産衣のまに千代ん 川面

うさりまむむめあ髪の出馬田にはひいあ三月の古道富子 尾職甚丸

重結も干さし棚にみちのくやたてたる雛のまのにまに穂並庵

雛子

ひの袴引はの昇路に雛の短子女男存んでまう一對 酒つ日

あまにはまみえの對の内裏雛是て女のせらとせの桃 後人



いさ

おころは悟り向ひのうらむもあつたおねひ

いあまの

床のたに籠はさぬらうんてんてんてんてんてん

はいし

いたしの味の時も博て木にふるまてふちつしうま冬石

とねん

山吹の子は蛙の産つたにをもおろえにあひてやまぐす

阪下

しぬいたかちをわきていろくのうひを合けん節の

このせち

寄雛恋

船はくは深しいまをまて妹にもえれてぬこちの家碇亭

としと群し浦寄か子の仕相違り明々てくれし雛祭うま

石印の久く世てみれば山川にとり送こつる古の白酒

一ねこのうさるひいふの目下にはありある屋の雛

佐十

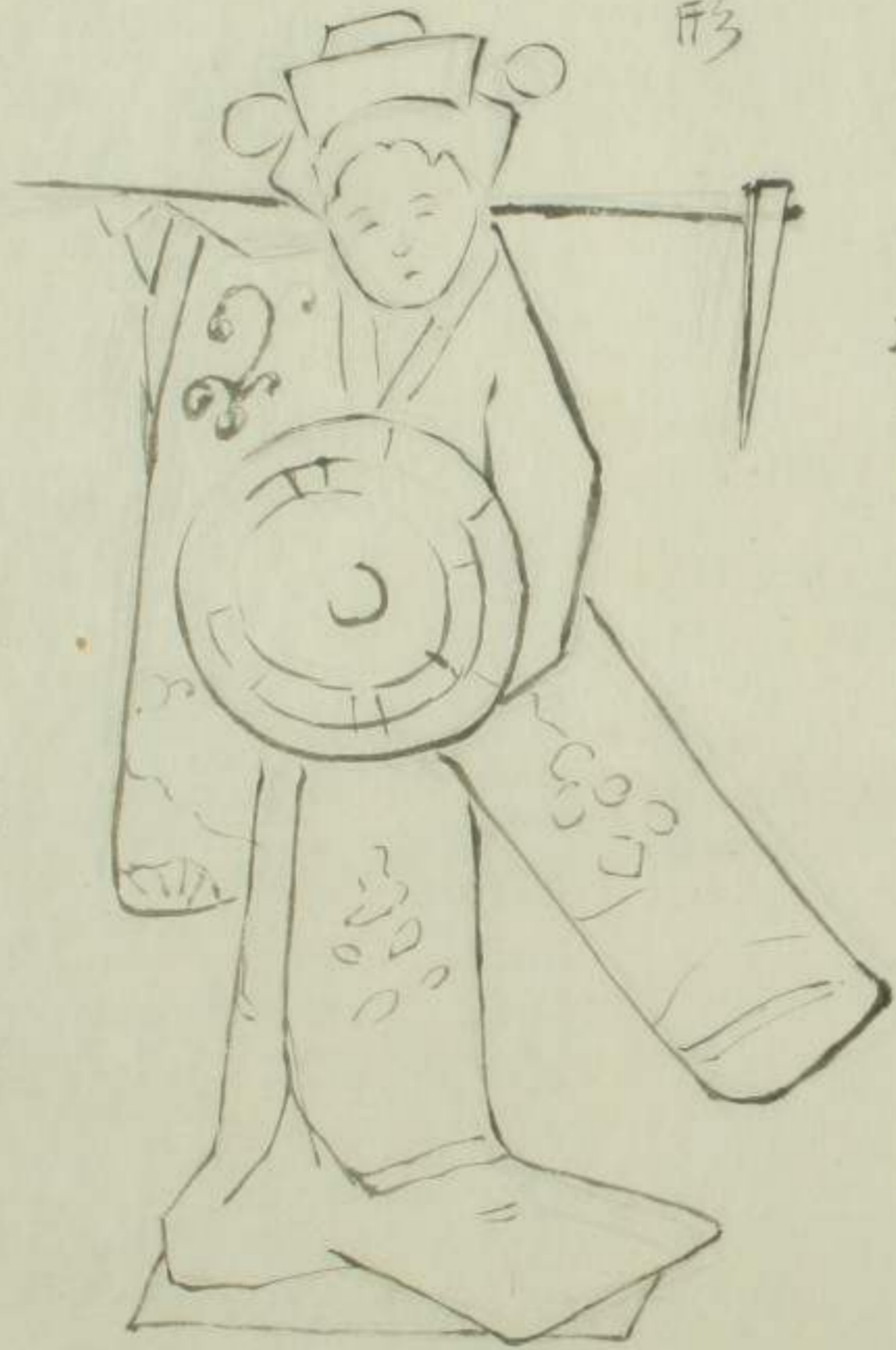
坂下

おまひて流る雛の屏風坂十二ひの重の子の錦

以上

和博

張子女人形



江次菜実女

同女にて飾りて古雅あり  
張子女人形を以てかくは  
製はあまきりし



百化物の巻

世五十九日神田原の原に定り、集古会に市川下巻女共撰の巻あり、百化物の題す  
 了通巻物は陰陽かたまりありて、百化物といふを、三十一計あり、久巻よ  
 りんか奥書に右鳥羽僧正の巻あり、住古小野大神の巻あり、天和三年二月修慶  
 二執事伯慶とあり、鳥羽僧正といは、滑指あり、古和原のものあり、是は疑也  
 古化物の名の面白りに加つて、其函の各板あり、目録あり、けり、  
 の種数名称を挙ぐん

こころく (佛々の如きもの) 内の七せいはい (老体) 山姥、めひとつ坊 (僧形)  
 じし鬼 (鬼頭蛇体) 己い羅 (鬼頭牛体) おとくし (般若の如し) 山い  
 (猶に似たり) ちやくま (河童の如きもの) ぬりけり (淨佛の如し) かみり  
 ち嘴ととも鬼形) なまびす (女首) おくも、河か口 (鬼形して火輪を吐く也)  
 かまつけ、かご (白衣を穿たる鬼) 屋いす (鬼の如し) ぬれ女 (人頭蛇体)  
 ぬりひん、大僧 (白く、滑指の如し) ふろど火 (火を吐く也) じい (鬼形)  
 山わら (目) 大神 (大の僧体) ぬけ首、ゆい、雪女、やこ、ゆいまた

かぶさりの女児赤衣を着、三弦をこす (火車、ふゆの、ぬつ屋つぼ) 海客

海客

古名探の古相あり、かほつぼ、ぬけ首ふと、言語の変遷をわたり、今の人を聞かば、  
 化知いと多し、十に三にきたりて、女児の赤衣を着、尾を現し、三弦を弄する、  
 此は古相にけ、三弦のつとを、かふと、あふぬ、ゆい、ゆい、ゆい、ゆい、ゆい、ゆい、  
 は函巻之鎌倉集古会、四巻あり、かふは、日所、未、旅、旅、有に、帰、せり、と、い

ぬつ屋つぼ



ぬれ女

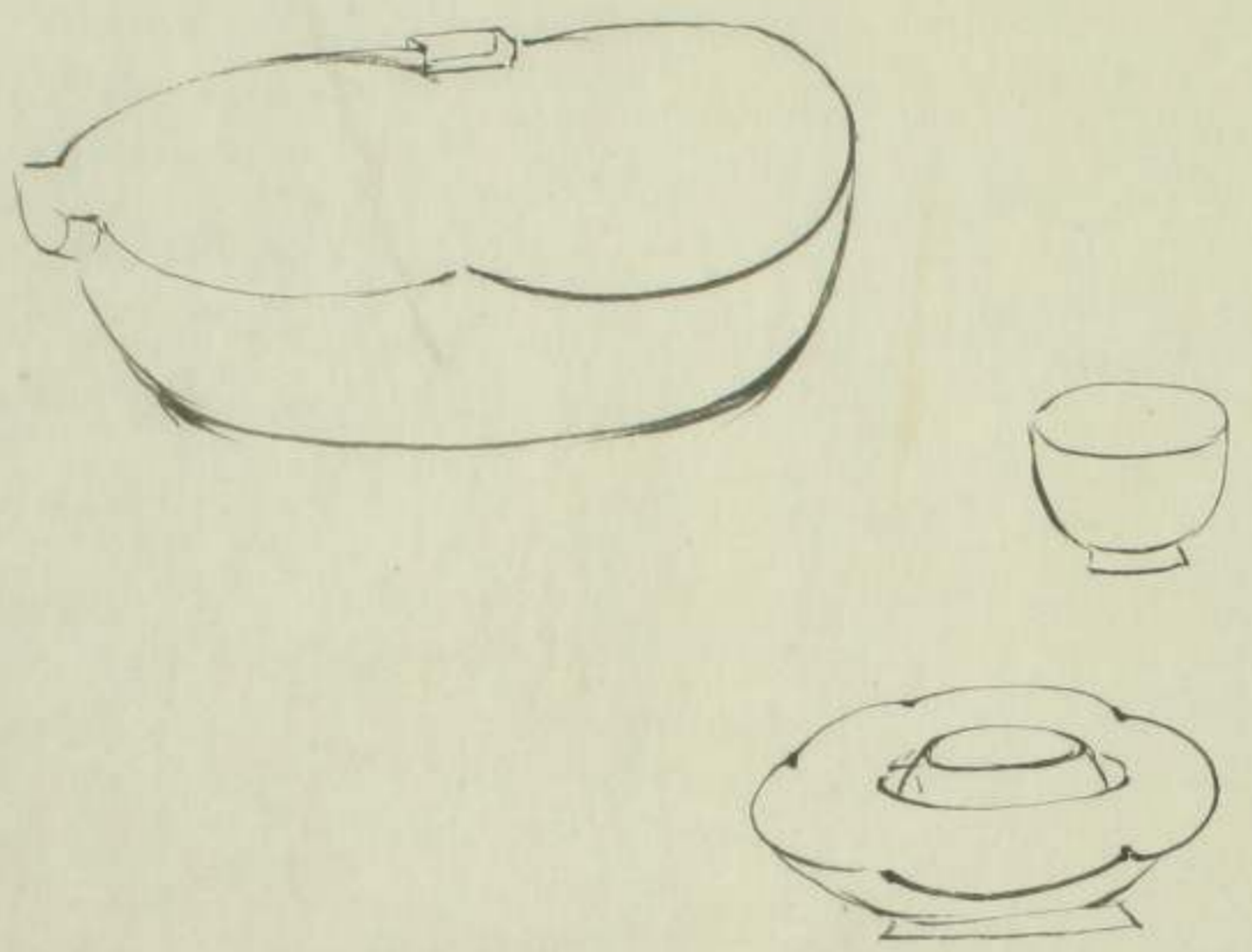




世嘉平の九月廿二日海向より本誓寺に依りて有る者より容者よしの羅漢  
と歎福の信誘ふ人にもあひて古き事かめりんとて山中笑、園田村維新と

海向より  
御加はら所  
かもしや 善八

阿いかたかくと和漢の記の阿字のかんばんのことを漢りて上人の御いふ之本誓より  
れとい及下三河位とふから御いふを容者よしの羅漢の御牌ありしが世嘉平の  
と思ひか寺におくははれりものよりいふを少めりかかもしやのあかんばん位と用  
ふりものよりいふは二即の寺院飛（表裏の言とい書と書とがく）和漢の如意のやり所ありおの大方里かむじ  
を狩（さし）所ありははかんばん位ま中にもさくも可ふ人々と何とち大誓寺  
海向潤達より信誘は羅漢依に供へる者知の和洋派をあるにもおれ  
て珍なりとお出といふて 容者よしの御依日記の函巻物に記しありこの  
見せぬ目につきたるものたに かしらぬ





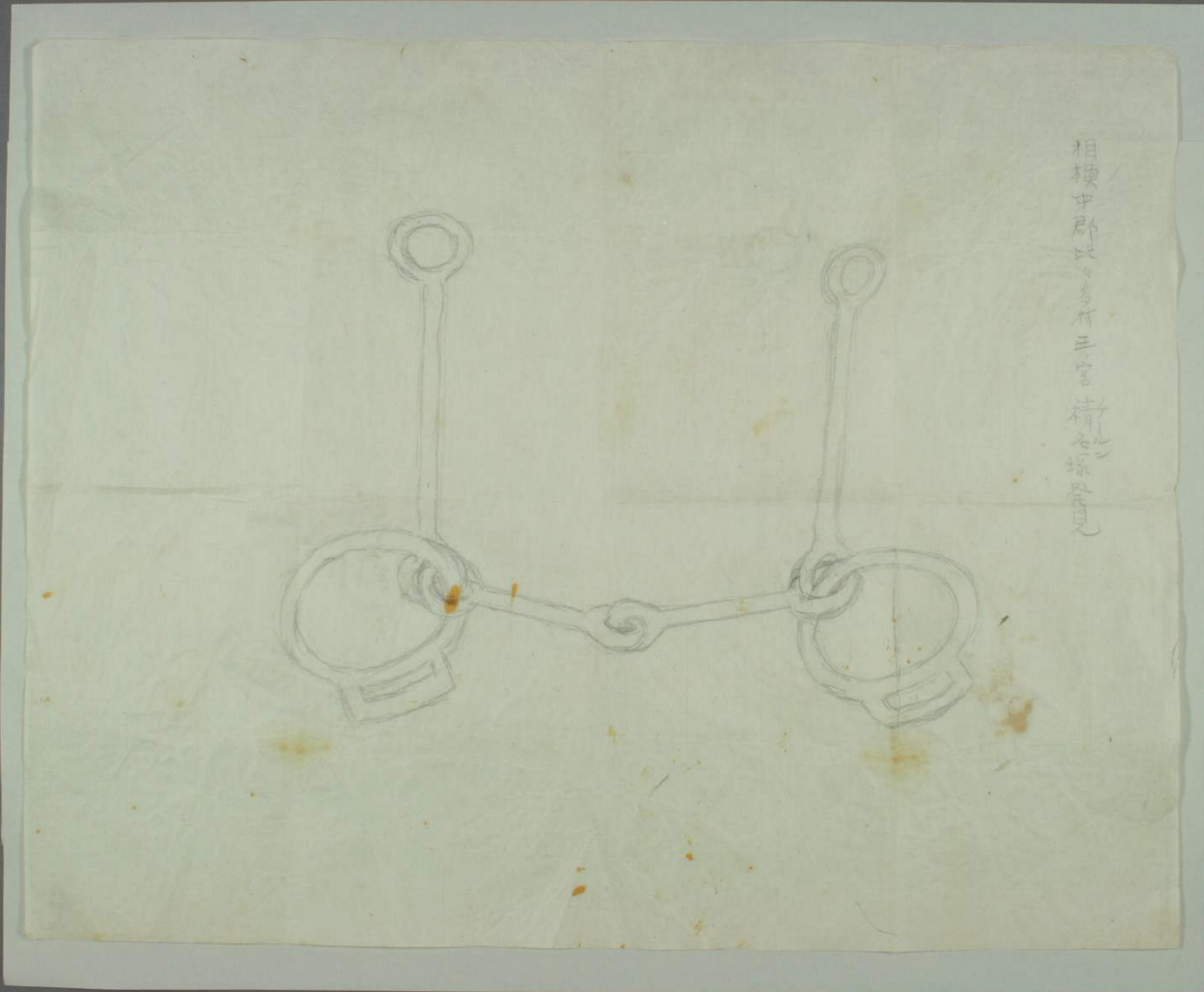
摩訶般若波羅蜜多心經

觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五  
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不  
異色色即是空空即是色受想行識亦復如  
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨  
不增不減是故空中无色无受想行識无眼  
耳鼻舌身意无色声香味觸法无眼界乃至  
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死  
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得已无  
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无  
罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢  
想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故  
得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜  
多是大神呪是大明呪是无上呪是无等等  
呪能除一切苦真實不虛故說般若波羅蜜  
多呪即說呪曰

揭諦揭諦波羅揭諦波羅僧揭諦 菩提沙婆訶



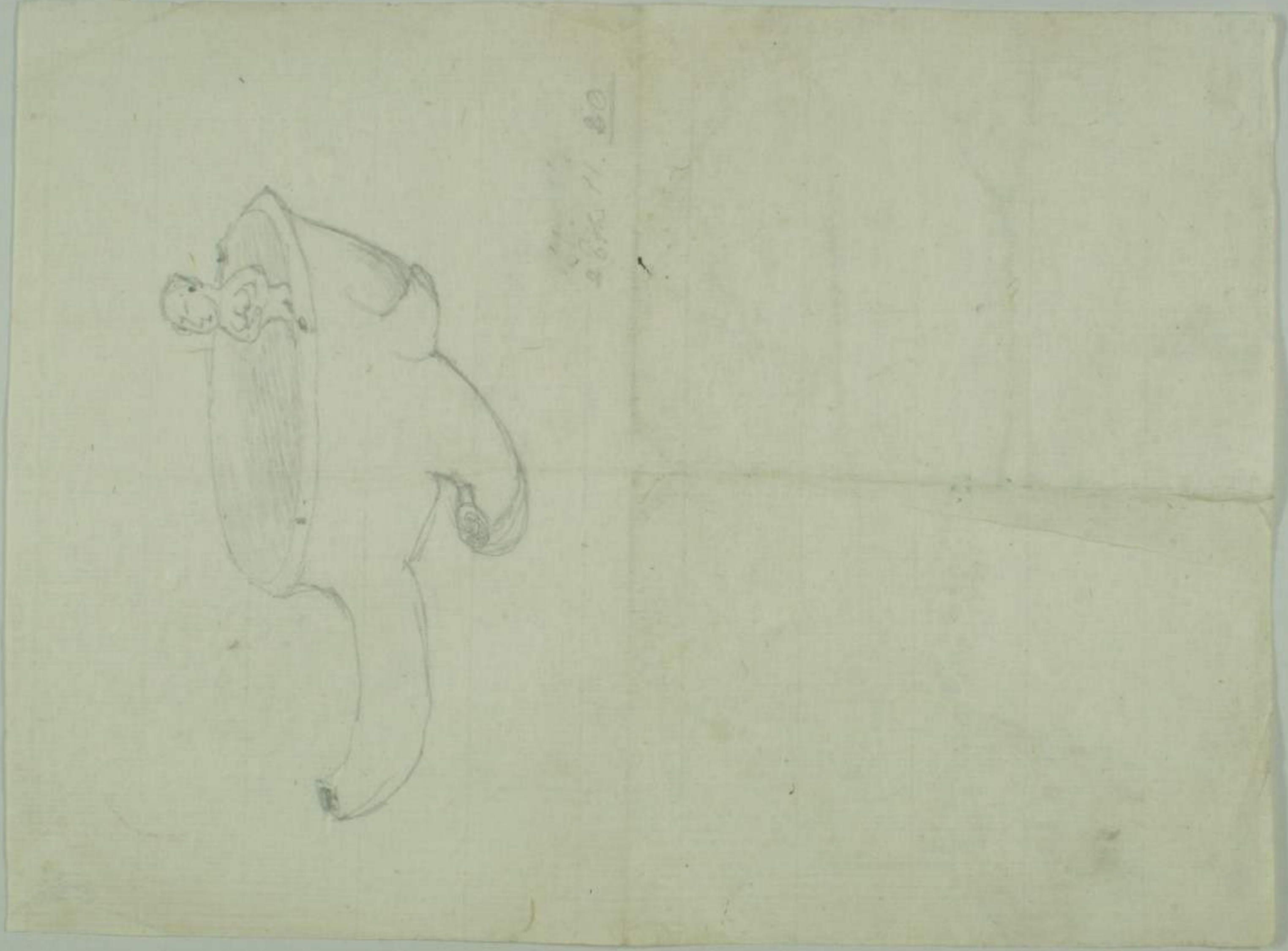




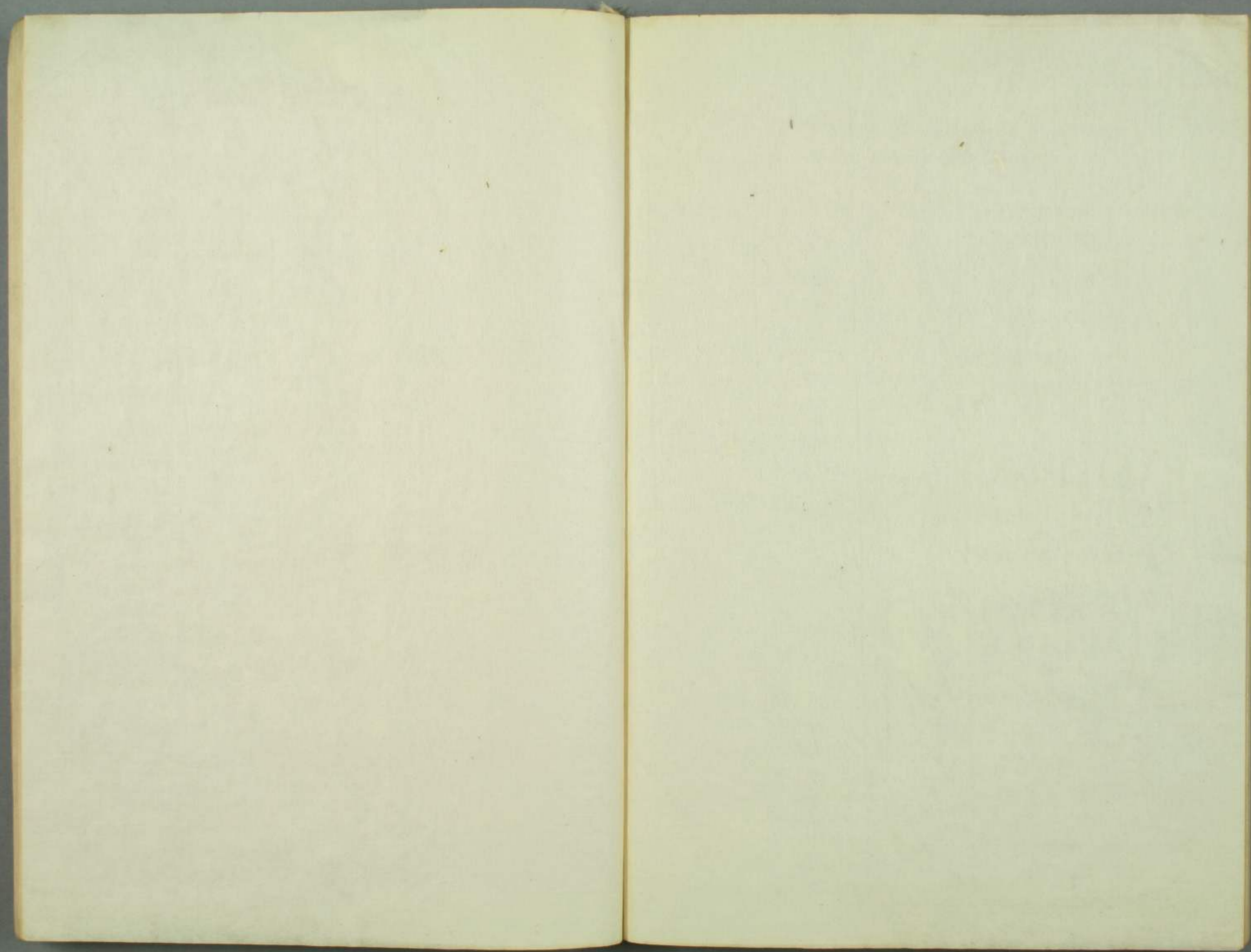
相模中郡比叡多竹三宮精名塚見













以下全て  
白紙



